大正九年九月十四日
大正十年六月一日發行（第三種郵便物認可）

建築と社會

第拾輯 第六號

日本建築協會

昭和二年 六月一日



Hirosima Geibi Ginkoo Honten.
Sekkei: Kentiku Koogyoo K. K.
Sekoo: Oobayasi Gumi.

Ikayooni Soosyoku wo korasareta Heya nimo Tyoowa no dekiru *Shutter* wa Numasimasiki Kwanzen *Balance*.

Goomei Kwaisya Hanken Seisakusyo.
Oosakasi Konohanaku Okizima Kitanotyoo 11.
DENWA: TOSABORI 4020.

Dairiten {Mitui Bussan Kabusiki Kwaisya.
Sanki Koogyoo Kabusiki Kwaisya.

『カット』圖案當選者

豫て懸賞募集したる「カット」圖案は締切以來數次審査を重ねたる結果左の通り當選しそれ〳〵賞金を贈呈せり

第壹等當選

東京府中澁谷町二二三　福永弘君

第貳等當選

大阪市西淀川區大仁町一〇五　高橋種夫君

第參等當選

群馬縣廳土木課　前田清二君

日本建築協會

◀口　繪▶

■大阪市大火分布圖
■都市計畫の完成近き大江橋以北
■上本町廣場と渡邊橋以北の一部
■阪神國道改修平面圖と完成實況

◇◇◇

▼防火と建築……工學博士　片岡安……一
▼自由空地……法學博士　關一……三四
▼住宅の不良化……大阪朝日新聞調査部長　藤田進市……三三
▼土地收用に就いて……大阪市都市計畫庶務課長　岡崎早太郎……一七
▼火災防備と建築……大阪府消防課長　土井末吉……三九

▼自由空地を加味した都市改良……農學士 大屋靈城……七

◇◇◇

道路問題の研究

▼大阪市の道路瞥見……大阪市土木部技術課長 近藤博夫……四二

▼京阪神の交通に就いて……京都府土木課長 村山喜一郎……四六

◇◇◇

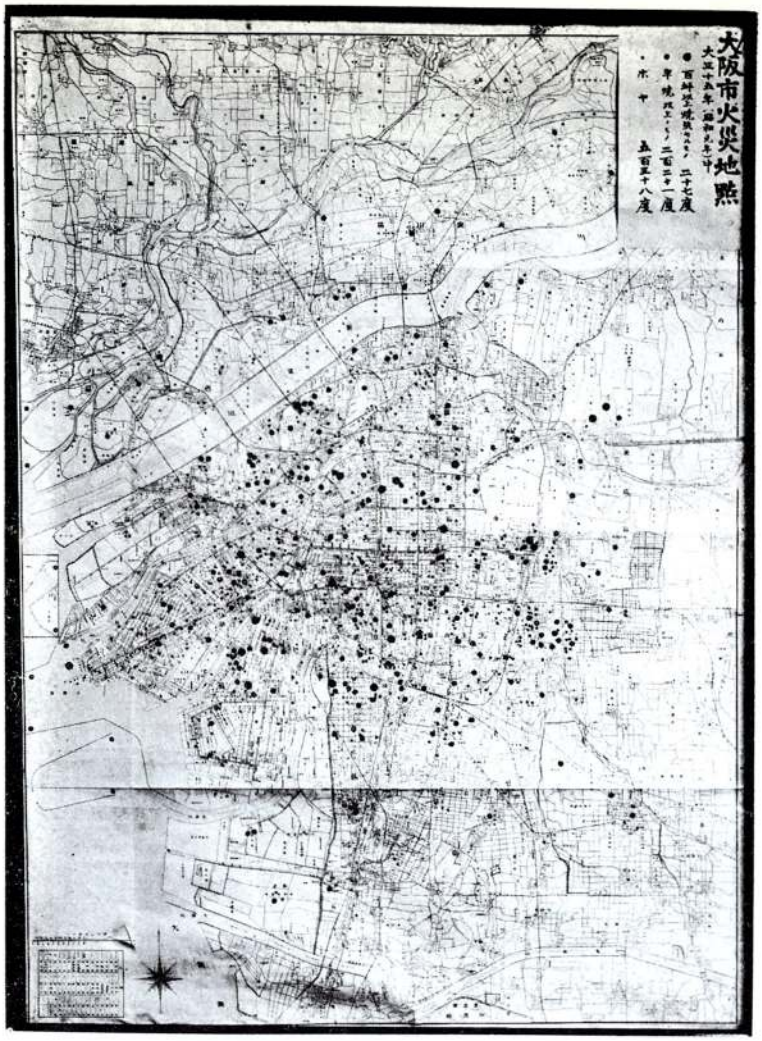
▼田舍漢は考ふる……法學士 大須賀巖……五三

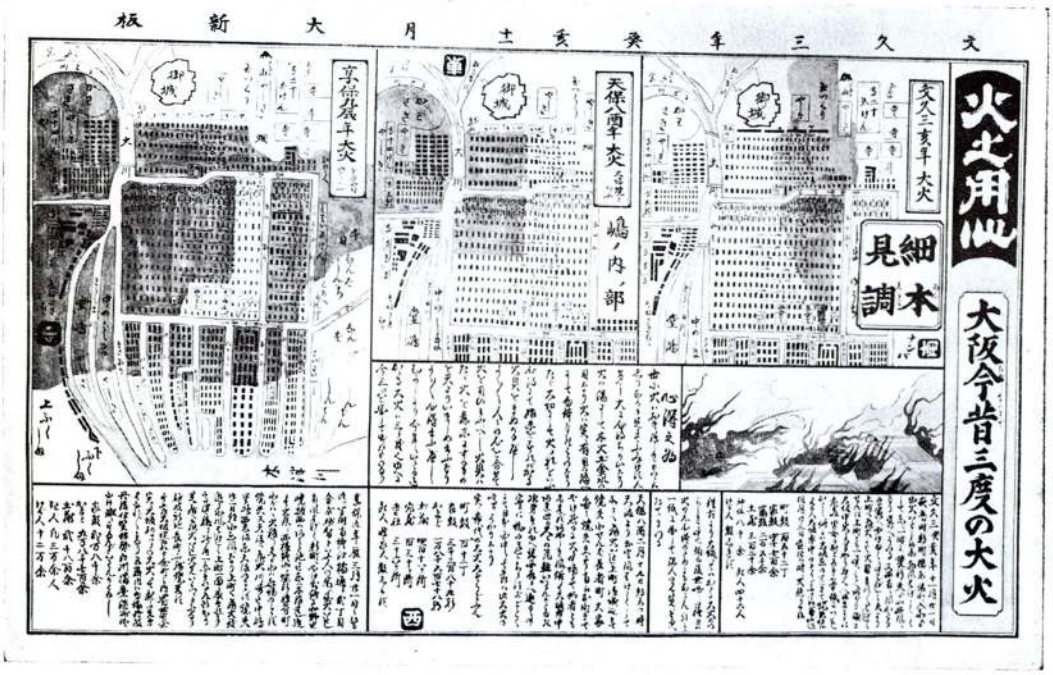
▼春季大會隨行記……N K生……五七

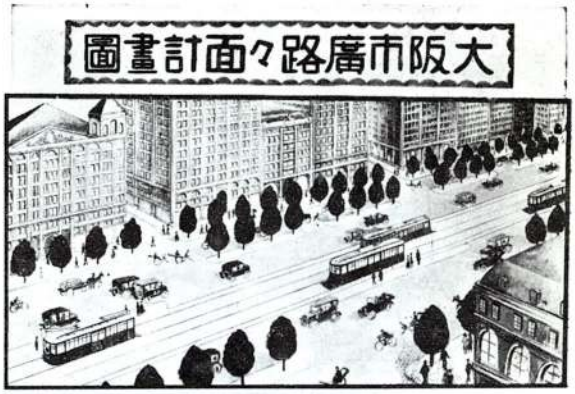
▼大阪城虎の傳說の內(二)……齋藤惠太郎……六一

◇◇◇

▼日本建築協會々報……

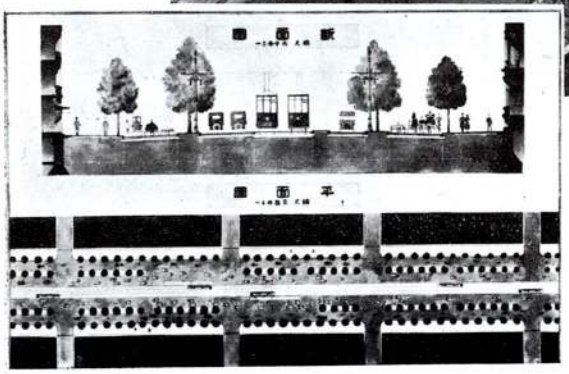

大阪市火災地點


火之用心
大阪今昔三度の大火
文久三亥年大火
細見本調
天保八酉年大火
嶋ノ内ノ部
享保九辰年大火
新板大月十戌癸辛庚己文久三年





大阪市都市計畫の完成近き大江橋以北

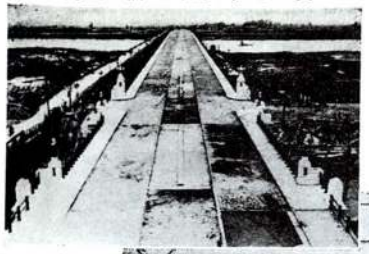






（上）大阪市都市計畫上本町廣場

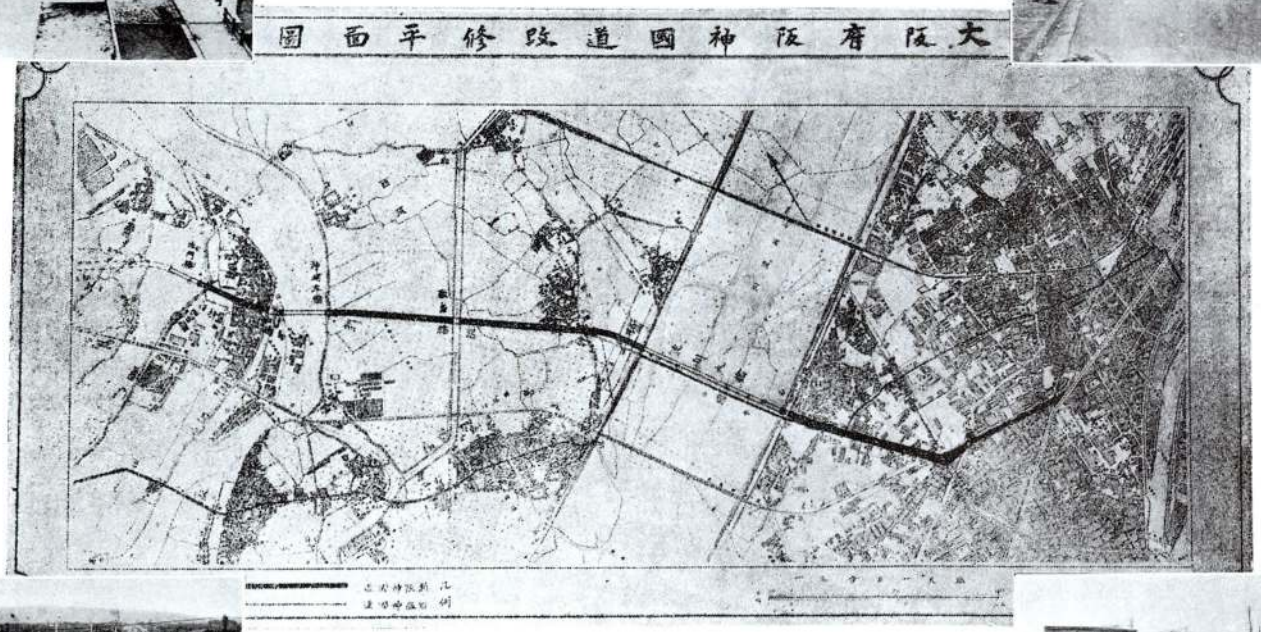
（下）大阪市都市計畫の完成せる渡邊橋以南



竣工したる淀川大橋の正面



竣工したる國道起點附近

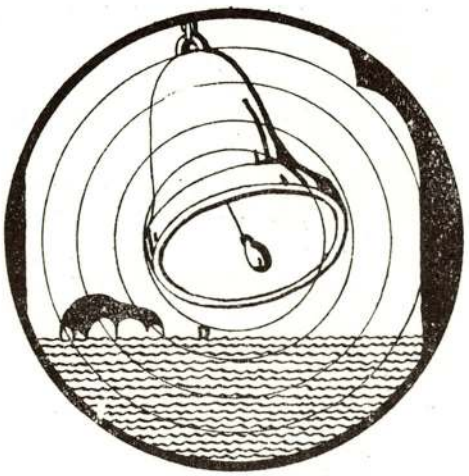




部一の路通るたし工竣



場廣町園茶田野西るたし工竣



防火と建築

工學博士　片岡安

都市の實體は人であるが、人をして愉快に思ふ存分に活動させ、又之に慰安を與へるものは言ふまでもなく建築である仍ち文化の進歩に從て建築も亦進歩して、我々に十分滿足を與へ得る性質のものでなくてはならぬ、言ひ換へれば、建築は時代の進歩に伴つて、漸次改善され、或は改造されなければならぬ運命を有つて居るものである、此點から我國の都市の建築は大々的に改造さるべき立場にあるのであつて、都市の凡らゆる問題を解決する基礎として建築の改造と云ふことが絶對に必要條件になると思ふのであるが、事廣汎に亘るが故に、こゝでは假に之を防火即ち火災を免れると云ふ點からのみ建築を觀て、其改造をしなければならぬと云ふ主要なる理由を述べて見たいと思ふ、尤も防火即ち火災から免れると云ふ事のみを以て建築改造の原因の總ての理由の總てなりとはしないのであるが、理由の最も大なるものであると云ふことに於て此問題が提出されて居る次第である。

火事は何故に起るか、其原因をよく調べ、其原因を除きさへすれば可いのであるが、其原因を除くことは未だ我々人類の力では解決されて居ない、火災の原因は先づ我々の過失を以て其最大のものとする、其他放火、戰爭等であるが、戰爭も最近非常に進歩して、飛行機飛行船などから爆彈を投下すると云ふやうなことの爲に、都市の危害が更に倍加して來たやうな譯である、放火は我國にては火災度數の百分の六を占めて居るが、是等は病の如きものであるから或る程度まで取り去り得るけれども、過失を除くことは容易に出來ない、我國に於ける火災の度數を調べて見ると、最近一ケ年に約一萬五六千回乃至一萬八千回に及んで居る、之を人口の頭割にすれば、一萬人に付て約三回　即ち人口一萬の都市ならば三回の火事があり、百萬の都市ならば三百回の火事がある、大阪

市の如き毎年五六百回の火事があるのは、恰度此國民全體の比例に當つて居る、近き將來に於て此失火の數を少くする事は或は不可能でないかと考へられる、而して此等の失火の一つが偶々暴風に會へば、其都市は其風上に於ては安全であるとしても、出火の場所から風下に於ては全滅すると云ふ運命を有つのであつて、之を過去の歷史から觀ても、亦最近の事實に徵しても洵に明瞭である、斯かる運命にある都に住む我々都市民の境遇は實に悲慘なものと云はねばならぬ、此境遇から我々が脫せられざる以上は、百の都市計畫も、千の都市改良事業も何等の意味をなさぬことではないかと考へられる最近の例を見ても、大正十二年の震災から生じた火災は、僅か一晝夜の中に約一千萬坪に近い面積の建築を燒失したのであつて、建築其ものゝ損害は或は十億內外であつたであらうが、此建築に包含された有らゆるものゝ損失は更にそれに數倍して居たことは種々の統計等に依て明である、又それが爲に直接間接に我々の活動が阻害された其損害の分量は或はそれに幾倍かして居つたのでないかと考へられる、是は最近の實例であつて、古き歷史的の事實を調べるまでもなく、最も新しく都市生活の悲慘な狀況を我々は實見したのである。

今日世界の大勢を觀れば凡ての文明國にては、都市の使命の重大なるに鑑み、都市の中樞區域に於ける建築物は總て火災に罹からないやうになつて居るのであります、亞米利加の都市は發達は猶ほ新しくして、未だ十分に整頓して居ない關係から、火災の度數及罹災の區域も甚だ大きく、損害の程度も今日の所我國のそれよりも大きいのであるが、最近亞米利加に於ける火災の原因に關する研究、防火に對する努力は非常に盛なものであつて、恐らく數年或は十數年の後に於ては火災の被害を完全に免がれ得るものは寧ろ亞米利加の都市であらうと思はしめる、歐羅巴に於ては中古以來既に都市の使命の重大なることを自覺し、都市の中央部には燃え易い家屋は絕對に無い、偶々あつた所が、其ものは他に被害を及さぬと云ふ程度のものである、然るに我國の都市の家屋は其九割五分若くは九割八分までが本造建築であつて、甚だ燃え易く出來て居るから、若し失火か暴風に會へば、一夜にして其都市の大半を燒失すると云ふ狀態に在る、之に反し歐羅巴の都市は火災の延燒に對しては抵抗力甚だ高く、我國の都市に比して其安全の程度は幾倍かの上にある。

何故に歐羅巴の都市は斯くまで火災に對する防備が完全して居るか、其理由は色々あることゝ思はれる。即ち彼等が都市の使命と云ふことに於て我國よりも早く目覺めたと云ふことも其一であるが、又一には彼の千六百六十六年に於ける倫敦大火の驚くべき悲慘な狀況が、英吉利國內は勿論、大陸の諸都市にまで、斯かる悲慘事を惹き起すことは甚だ恐ろしい文明都市の恥辱である、一日も速く斯かる狀態から脫せなければならぬと云ふ一大警告を與へたことが其主要なる理由であると言はれて居る。此倫敦大火のことは凡ゆる方面の記錄に書いてあつて、こゝに改めて述べる必要もないことであるが、唯其火災の樣子が我國に於ける狀態と少し違つて居るから、其點に於て大なる參考になるかと考へ、少しく其當時の模樣を述べて見たい。

倫敦大火は千六百六十六年の九月二日(日曜)の眞夜中、午前二時頃に倫敦橋の橋詰のパン屋から出火し、偶々「東南の

烈風に」煽られて、テームスの北岸を焼き、漸次西の方に向いて行つて、月曜になつても消えない、そこで倫敦の行政機關は大混亂を來たして、遂に市長のブラッドウォース卿は、何故に不斷から消防の用意をして置かなかつたかといふ批難を受け、免職をされ、王弟ヨーク公は急に司政長官に任命され、チャーレス二世王を首め總ての行政機關は協力して火事を消すべく凡ゆる畫策を運らし、必死の努力をしたのであるが、如何せん當時の消防機關は我國の三十年程前にあのた手押喞筒程度の、漸くバケツに一ぱいか二はいの水を四五間の距離にまで撒くと云ふに過ぎないものであつたのみならず、建築物も其内部には可なり多くの木材を使用してあつたといふ關係から、延燒は益々擴大して更に其翌火曜日又其翌日の水曜日に亘り盛んに燃え續けて、風力の衰ふるまで如何ともすることが出來ず、漸く翌六日(木曜)の朝になつて鎭火した即ち四晝夜の間燃え續けて、其間今日の所謂倫敦の中樞區域當時の倫敦の殆ど全部を燒失したのである。併るに斯かる恐るべき大火の其燒失面積は僅に五十餘萬坪、燒失家屋一萬三四千戸に過ぎなかつた。之を我德川時代三百年間の火災の狀況に比較して見ると、延燒の速さに於てそこに驚くべき大きな差異を見るのである。

德川時代三百年間の最も悲慘な火事は明暦三年一月十八、十九の兩日に亘る江戸の大火であつて、當時の江戸の殆んど全部を燒失した、其罹災區域は偶然の暗合であるが、大正十二年の大震火災に於けるそれと相匹敵するものである、その大火の模樣を見るに明暦三年一月十八日の午後二時頃本郷の本妙寺から出火して、湯島、神田、淺草、通町筋、鎌倉河岸京橋八丁堀、靈岸島、鐵砲洲を經て深川に至るまで、實に一里何十町の間を僅か一晝夜にして燒拂つた、又其翌十九日の正午頃小石川傳通院の附近から失火して江戸城の西の丸を殘して、本丸、二の丸、三の丸を首め、丸の内一圓を全燒させ更に同夜麹町七丁目より出火し、半藏門の外、虎の門から芝方面一帶を燒いて、海岸にまで達した、即ち此兩日に於て江戸の町が殆ど全滅したと云ふのであるから、非常に悲慘な大火であつた、それは恰度倫敦大火の約十年程前、今より二百七十年前のことであるが、江戸幕府三百年間に於ては明暦以來も可なり數次大火に見舞はれたのである、其延燒の延長一里以上に亘る大火中の大火は德川時代に於て三十七回を算する、即ち約八年未滿毎に一回の大々的の火災に會つて居る譯であつて、場所に依ては八年毎に重複燒失した所もある、先づ斯う云ふ狀態であつたが、其後明治大正の五十年間に於ても延長八町以上の火災が十七回、即ち三年に一回づゝ可なり大きな火災に出會つて居る。

東京に於ては從來火事は江戸の花なりとして却て之を誇り顔に唱元られたやうな事實もあつて、洵に面白くない社會相であつたと考へられる、しからば其他の大中の都市殊に大阪京都などが大火に罹かつて居らぬかと云ふと、なか〳〵さうではない、何れも數次大きな火災に出會つて居るのである。大阪では寛文六年の新町遊廓の大火を首め、下つては明治四十一年の北區の大火、次で同四十五年の南區の大火に至るまで二十餘回の大火に會つて居るが、殊に享保九年三月二十一日堀江橋通三丁目から起つた火事は、偶々南西の風に煽られて、南は船場の南方一小部分と、西は堀江、新町、長堀邊の

西方一小部分を殘しただけで、大阪の殆んど全部を燒失した其燒失區域は四百八ケ町六萬戸に及び、明暦三年の江戸の大火と同程度のものであつた、京都に於てもなか〳〵恐ろしい火災に出會つた例が多いのである、天明八年の大火の如きは京都は殆ど全滅して、非常に悲慘な狀況を呈したといふことは有名な事實である。

上述の如き我國都市の數次襲はるゝ大火は何を物語つて居るかと云ふと、我國の都市は一度び火を失して、偶々それが強風に出會へば、其風の方面にある町等は全滅しなければ止まないやうな建築物を以て成立つて居ると云ふことを示すものである、昔の如き民衆の經濟生活の幼稚な時代にあつてはさう云ふことがあつても、悲慘ではあるが、猶ほ忍び得たのであるが、今日の我々の經濟生活は其趣きを異にして居るのであるから、一度び大火の災害に會つては容易に復活し得ざるやうな悲慘さ狀態に陷るものと覺悟せねばならぬのである

近來我國の都市に於ては近代の經濟組織に適合すべく其內容に於て、諸種の改善が加へられ、例へば教育の制度にしても、衞生の設備にしても、經濟上の組織にしても、總て世界の現代文明の潮流に沿ふやうに努められて居るが、唯其建築物のみは相變らず今述べたやうな脆弱にして可燃性の狀態の儘に置かれて居る、實に遺憾千萬なことであつて、若し此方面に大改造を行はなければ嚮て我國家の前途を危ふするであらふと思はれる。我國民が此點に就て如何にも暢氣であつて斯の如く火災の危險率の多い都市に往居しながら今は猶ほ改造の企に熱心ならざるは如何なる故であるが、私は甚だ迷はざるを得をいのである、關東大震災の直後私は各方面の識者に會ふ毎に、彼等は殆ど異る同音に、從來の東京の建築が粗惡であつたが爲に、如何に大なる損害を受けたかと云ふことを考へると、復興の東京に付ては建築物に對して深甚の注意を拂はなければならぬ、と云ふことを唱へたのであつた、然るに人の噂も七十五日、時日の經過と共に彼等は其主張を忘れてしまつて、木造建築を助成——でもないが、木造建築を許して貰ふことの運動をする者が多くなつた、實に心外に堪へないけれども、實狀はさうである、復興の東京横濱を見て、今日果して是等の都市が完全に震火災を免がれ得るが如く復興されつゝあるや否やと云ふことを考へると、甚しく失望せざるを得ないやうな狀態にある。

帝都の復興計畫を完成するには五億圓（其實は七億圓の金を要するのであるが）此七億圓の金を費して、帝都及び其附近都市の復興を企てつゝある其結果がどうなるかと云ふことに付ては多大の誤解があることは非常に遺憾である、それは建築物と云ふ方面から見たる時に明かに感せらるゝ誤解であります、即ち其七億圓と云ふ金を費せば、帝都並に其附近の町々が將來完全に火災を免れ得るやうな立派な都になるが如く考へて居る人があることでありまして、そもそも帝都の復興とは唯街路、橋梁、公園等の修築擴張だけを意味するのであつて、簡單に言へば、土地の整理が出來るといふに過ぎない、建築と云ふものには殆んど觸れて居らぬのである、即ち建築物が建て並ぶと云ふことに付ては其七億圓の金は全然無關係なものであつて、復興の市民、各自の力に依り將來の災厄を免れ得るやうな程度の現代式の完全な防禦力を有つた建築物を建設することに依つて、そこに初て復興の實を擧げる

ことが出來るのであります。

現時復興途上の都市のみならず、我國の都市は殆んど一率に大火に罹かる可能性を十分に備へて居る、之を百分率を以て現すならば、九十五パーセント乃至九十八パーセントに近い所の可能性を有つて居る都が多いのである、固より都市計畫事業の進行に伴ひ、道路が廣くなり、或は防火地區の制定に依て新しい建築を防火的ならしむると云ふやうなことも少しづゝは實現するであらう、併ながら將來其防火地區が全部防火建築を以て覆はれ、所謂名實共に完全な防火地區を形づくるやうになるのは果して何年の後であるか、二十年後であるか、五十年後であるか—或は將來猶ほ百年を要するかも分らないやうな狀態に貽されて居る、市街地建築物法の第十四條には、火災防禦の爲め必要なりと認めた時には主務大臣は防火地區を指定し、其地區内に於ける建築物の構造設備を制限することが出來るやうになつて居る、けれども完全に其効力を現はすのは運用の如何に依るのであつて、唯將來家屋を建築する場合にそのものを防火構造にせよと云ふやうな、そんな生温いやり方のみでは、今後百年を要するか、二百年を要するか分らない、是は洵に困つたものであると思ふ、又最も重大な責任を有つた建物、例へば官衙、公共團體の建物或は民衆用の建築物の如きものは一日もなかるべからざるものであつて、それが一日なければ、一日多大の損害を國民に與へるものであるが、それ等の建築物が果して防火の用意十分なりや否やと云ふと、實際は最も粗惡脆弱を燃燒的建築物の多いことは世間周知の事實である、帝都の市役所の如きは最も甚しい例であつて、最も危險性に富んだ防備力のない建築物の中に重要な市の機關が包容されて居ると云ふ狀態である其他各省官衙にして　大震火災直後の應急建物とは云ひながら、殆ど總て燃草の中で事務を執つて居ると云ふ狀態である東京に於ては、歌舞伎座其他の劇場は何れも立派に改築されて居るが、我國の劇場で完全防火的に出來て居るものは餘り多くはあるまい、殊に火災に危險なる活動寫眞館の如きに於ても防火的に出來て居るものは寥々たるものである、斯の如きは實際罹災の時の損害大なると同時に民衆の思想の惡化を來す傾向を有つて居ること多大なるものがある、是等建築物は法律の力、又其運用の努力、及び資本經營の立針に依て一刻も速く完全な防火力を有つた建物として範を他の總ての建築物に及すやうなことにしなければならぬ、又消防設備に付ては近來非常に進歩して居るけれども、まだ〳〵遺憾な點も多い、改善の餘地は猶ほ十分にあらうと思はれる。

尙ほ最後に私の諸君に愬へんとする點は防火力の十分なる建築物が經濟上却て有利であることの主張であります、今日木造の脆弱な燃燒質の建築は經濟上非常に便利な爲であつて防火的の宜全なる建築は多くの經費を要し、經濟上算盤が持てない故に、之を希望はするけれども、財力の都合で造ることが出來ない、所謂經濟上の關係で防火建築が出來ないのだといふ風に誤解をして居る人の多い今日に於て、斯かる誤れる考に依て都市が日々脅威されることないやうに、諸君に於て之を社會に宣傳することに共鳴さるゝことを御願ひするのであります、今日木造の建築の工費は非常に高くなつて居り又日々高くなりつゝある、之に反して鐵筋コンクリートの建築の工費は日々安くなり、又日々進歩して居る、即ち此二者

は逆比例の狀態に進みつゝある、而も我國の木材は各方面から見て漸次滅亡の傾向を有つて居る、殊に製紙の原料として或は其他の人文發達上必要缺くべからざる方面に可なり多量に消費されて居る今日に於て建築構造物にまで木材を盛に使用して、森林の將來を危くすると云ふことは、我國の將來の爲にどうしても愼まなければならぬ狀況にある、現に亞米利加から毎年少くとも五千萬圓、多い時には一億圓の建築材を輸入して居る譯であるが、斯かることを述べるのは決して私の獨斷僻見ではない、又木材建築は漸次時代の潮流に取殘されつゝあるものであり、且つ都市に甚大なる危險性を與へて居ることを考へ、一面鐵筋コンクリートの建築が益々發達して、其工費が漸次低下しつゝある事實を見、我國の都市建築が大改造の必要があると之ふことを思へば、我國の都市は此傾向を利用することに於て直に改造さるべき最も有利な機會に今日は到着して居るものと言はなければならぬ、而も今日世界の文明都市は總て火災から免がれ得るやうになつて居るに拘らず、我國の都市は依然として大火に罹り易い狀況にある、此狀況から脫するには建築を耐火的ならしむるより外に途はない、建築の改善に依てのみ都市の火災は救へるのである、又之を救ふことが都市計畫の根本問題である、仍ち都市計畫事業を行ふには、先づ以て都市の建築が防火的になり、失火に對して絕對に安全にならなければならぬと云ふことを私は主張して止まぬのである。

固より我國には火災の外に地震もあるから、家屋は又地震にも耐へるものでなければならぬが、此點に付ては今日の建築は防火的であるが故に地震には破壞され易いと云ふやうな時代の建築とは違つて、今日に於ては建築を防火的ならしむると同時に、耐震的ならしむると云ふことは、同じ傾向のものであつて、それを一つに取り入れることは困難なる問題でないが、此處にそれを論ずることは問題が餘り多岐に亘るので、その評論はそれを避けるが、耐震のことも當然防火と同時に考へ、建築物をして防火的なると共に耐震的ならしめなければならぬのであつて、又實現の可能性十分なる問題であると云ふことだけを此機會に附加へて置きたい。

以上申述べたことを綜合すれば、防火地域制定をも少し嚴重にしなければならぬこと——防火建築の構造が進歩して而もそれが經濟的に出來ること——官公廳の建築、及民衆用建築は卒先して凡ゆる方法を以て防火建築にしなければならぬこと——消防設備の改善——の四問題を主要なる論點として此處に報告を敷衍するのである。



自由空地を加味した都市改良

農學士　大屋霊城

一　實用本位の都市

本邦の都市計畫が實用主義に傾き過ぎて居ることは屢々識者によつて論ぜらるゝ問題である。

本誌上に於ても折々かくの如き議論の發表さるゝを見るが事實に於てもこれを否定する事は出來ない。即ち今日の都市計畫は都市の能率を增進する上に必要なる施設、都市の產業的發展に資する如き設備の完成には全力を注いで居るがさて市民の安寧とか幸福とか云ふ如き所謂住み心置よき町を造ると云ふ方面については殆んど力を入れて居らぬやうな氣がする。曾ても本誌上で「愛なき都市計畫」と云ふ題のもとにかくの如き事を說いたことがあるが眞の都市計畫は今少しく市民に對して愛のこもつたものでなくてはいかぬと思ぶ。やれ大道路の貫通だと云つて、又やれ地域制の適用だと云つて、又やれ防火地區の指定だといつて市民の住する家屋を撤去し又は色々の重き制限を加へて拘束することは都市將來の發展の上から見れば止むを得ざることには相違ないが、これだけの拘束を敢てする上に於ては一方その市民へ何等かの幸福を與へ又安住の出來るだけの保護が出來なくてはならぬ。然るに一方取り拂はれる市民に對しては換地を與ゆるでもなく、又地域によつて將來出來る建物を制限するとは云へ現在のものであれば工場其他安寧を害する如き建物でも住居地域から追拂うと云ふ如き積極的の手段にも出ないから十年や二十年では一寸も市民の幸福は增す事はない。

又建物の構造から云つても衛生上よくないと云ふ如きものがあつてもこれに改造を命ずる何等の規定もなく子供の遊ぶべき空地がないやうな町でも何等これを救濟する施設をなして居ない、公園なく運動場なく、從つて市民は金儲は出來ても健全な子孫を殘す事が出來ない市民の體格は日一日と惡くなつて工場の如き商店の如き如何にその設備が理想的に成つ

てもその中に働く肝腎な市民が病身となつては都市の健全な發達は望まれない。今日のこの實用主義の都市計畫中でも特に第一の缺陷として擧げ得るものは空地に對する計畫の不備である。今空地に對する計畫を各方面の都市計畫上に於て論じて見やう。

二　地域的の計畫に於て

如何に上下水道の設備が完備しても空地の適當なる保存配置が行はれなければ都市は到底衞生的に成ることは出來ない然るに現行都市計畫に於ては土地の用途上より全市域を商業地、工業地、住居地と云ふ如き三つの色分けに區別することゝ成るが將來建物を禁止して永久に建築敷地とせしめぬやうな土地は一ケ所にも配置して居ない。即ち市域内には原野とか森とか畑とか池面と云ふ如き天然のものは將來一つも殘存せぬことゝ成るのである。これは都市をして殆んど滅亡に歸せしむる如きやり方であるから必ずや地域を定める時には商業、工業、住居の三種の外に「農用地」又は「永久空地」と云ふ如き地域を加ゆる必要がある。

勿論公園とか運動場とか云ふ如き共同空地は地域によらんでも後で作らるゝが公園運動場等に使用さるゝ面積は比較的僅かなものであるから、これつばかしのものでは決して十分でない。必ずや實用に供用され而も個人の所有のまゝで市街地化せない空地を保存する途を講ずる必要がある。

三　郊外土地區劃整理に於て

今日の土地區劃整理は「如何にせば最小限度の土地を利用して將來最大の利益を得る事が出來るか」と云ふ事を目的として計畫されて「如何にせば一團の土地を將來人間の最も幸福なる住居地又は活動の地とする事が出來るかと云ふ點については毫も考へて居らぬ殊に土地所有者に於て然りである。都市の計畫に當るものは常に劃一單調な碁盤割を排しその土地の自然的並に經濟的狀態に鑑み、その目的とするところを參照して、將來人生の幸福を招致する如き計畫ある事を期したい。例へば小學校用敷地等の豫定は勿論子供の遊場、小公園、共同庭園と云ふ如きものは必ず道路や水路と同時に保存して置くべきである。幸にして先月の内務省に於ける都市計畫主任官會議に於ては區劃整理面積の3％以上を綠地として保存するの設計基準を決定した位であるから將來は今少しく餘裕ある都市が出來ると思ふがまだ〳〵道路割等にこの如き餘裕がない。

又史蹟名勝天然記念物、不用墓地、其他樹林、水邊等は成べく破壞せずして却つて之を利用する途を講ぜられたい。彼の英國に於ては既に一八四五年インクロージュアルアクトの如き法律を以て共有地の開發を或程度まで禁じ又一八八四年不用墓地法(The Disused Burial Ground Act.)なる法律を出して不用墓地を公園とするの途を拓いた如き又獨逸の樹木保存に關する法令の如き皆我々が區劃整理に際し學ぶべき事柄である。エフ、クンツ氏が「若しニューヨークが風致園藝家の手をかりて都市計畫を行つて居たならば今日のマンハッタンに見る如き火宅のやうな町とはなさなかつたであらう」と云つて居る。

私は先月、本邦第一の温泉都市として知らるゝ別府市を訪

ねて整理前の地圖と後の地圖とを見せて貰つてガッカリした事がある別府の如き遊覽都市は道路割を無理に碁盤目にする必要は決してなく却つてこれが爲に如何に湯の町の氣分を、破壞して居るかを考へさせられた、遊覽都市の計畫に於ては特にこの點に注意せねばならぬと思ふ。

又袋露地の家を防止する爲に各町のブロックの厚さをせい〳〵二戸の家が背中合せに建ち得るだけの厚み（例へば二十間とか二十一間とか云ふ如く）しか用意せぬがこれも宅地の階級に應じてもつと餘裕あるものとし道路もカーブを使用することにしたいと思ふ。

四　不良地區の改良に於て

不良住宅の改良に際し建築樣式をアパートメント風にする事は止むを得ぬかも知れぬが餘り感心出來ぬ點がある。それは人間の生活が自然から次第に遠ざかる爲に人間の精神に惡い影響を及ぼすは勿論衞生上から云つても道德上から云つても缺點がある、又鄕土的精神が全々なくなる。特に日本人の永い間の習慣性はこの生活を謳歌せない。從つて眞の細民はそこから逃れて他に又新らしき不良地區を作るであらう。私はこの細民及び細民の家族を安定させるには歸農させるに限ると思ふ。即ち都市の附近で農業をやらせるのである。これには獨逸の Schreber（シュレーベル） 氏の考案にかゝる Schreber Garten（シュレーベル ガルテン） Kolonie（コロニー） を採用するを可とする。この式では Howard（エベネザー ハウワード） 氏の Garden city（ガーデンシティー） の如き理想的の田園住宅を初めから作ると云ふ事をせず。ホンの九尺二間の小舍を造りその周圍を畑にして一戸約百坪乃至二百坪のロットとして、郊外に小住宅群を造つてこゝに住ませて居る。親爺は出稼に出ても家族が朝から晚に畑を作るから自分の食物は十分とれる。そして鄕土的精神と貯蓄心が生ずる十年も働けば千や二千の金がたまるからこの小舍を破壞して相當な家を建築するさすれば今日ではミットモナイ體裁ではあるが十年後には立派な住宅街が出來る土地は長期（30年位）に借りて置くがその間に金が出來れば買う事も出來る、この式で果して素人が農に親しみ得るかと云ふ心配があるが私は三年前から大阪郊外で自分で小舍を畑中に造つて試みて居るが少し農會等の指導をかれば出來ると云ふ確信を得て居る、又かくの如き生活が眞に愉快である事を體驗して居る。交通機關や職業の點等を考ゆれば大都市の眞中にある細民部落には直ちに適用出來ぬとするも中小都市では必らず成功すると思ふ。

私はこの Schreber（シュレーベル） 氏の Garten Kolonie（ガルテン コロニー） によつて下層階級の住宅を漸次改良して行く事は確かに一つの方法であると思ふ。

即ち市街地內に畑地を散在せしめて都市の密集過群を防止すると同時に下層の市民に土着心を起さしめ又健全な身心を養成することも出來て何れの方面にも好良の結果となる。今日社會局等に於てスラムの改善を企てゝ居るが、このコロニー式の建築樣式を加味することは下層民にとつてはアパートメント式を强制さるゝより確かに嬉しい事であらう。

五　公園の計畫に於て

公園を都市に適當に分布すると云ふ事は勿論大切なことであるが今日の如く單に市民の休養娛樂とか運動遊戲等に資す

私が茲に自由空地と云ふのは永久に空地として殘る運命にある土地を意味するのである今參考の爲大阪市に如何に自由空地や樹木○地(綠地)の少ないかを表に示して見やう。

歐米の如く大阪に限らず我國の都市は多く樹木の繁茂を許さぬ如き窮屈な發展振りをして居る、これ實用都市でなくて何であらう。今日歐米に行はるゝ田園都市の如きは一定面積に居るから云へぬ。

歐米の都市が市民一人當り二坪さか五坪さかの大面積の公園を持つて居ても尙他に森林地や、綠草地を保存する事に努めて居る位であるから我國の都市では公園運動場の計畫に於ても、これに聯關して森林や又は自由杜例へば神社、堤防の並木さか、市内の街路樹さか郊外の水邊、池沼の樹綠き苔しくも綠草を以て蔽はれ又は水面に浮つて清らかなれよ同さ公園地は成るべくた地域に、その儘保存又は自由杜の空地に充當將來都市ねばならぬ。

大阪市樹木蔽地比較表

各區の面積及人口に對する樹木蔽地面積の比較(都市計畫大阪地方委員會公園係調査)

區別	區面積(坪)	區人口(坪)	區樹蔽地面積(坪)	區面積100ニ對スル樹蔽地面積(坪)	區人口100ニ對スル樹蔽地面積(坪)
大阪市	55,577,763	2,214,322	1,662,967	2.99	751
舊大阪市	17,721,624	1,431,500	554,318	3.13	394
南區	2,985,984	424,800	266,174	6.91	485
東區	2,786,144	231,900	156,309	6.35	616
西區	8,529,372	448,100	97,460	1.14	217
北區	3,683,824	326,400	93,875	2.55	287
新大阪市	37,856,144	782,822	1,108,649	2.93	1,416
住吉區	11,1 9,520	140 907	535,986	4.82	3,810
西成區	2,132,516	137,630	49,463	2.32	339
東成區	6,397,248	236,141	176,433	1.88	747
東淀川區	8,782,862	145,812	235,933	2.67	1,618
西淀川區	6,393,998	122,332	110,779	1.72	905
都市區域內都部	12,507,000	55,349	618,951	4.95	11,182
中之島西都署	2,504,000	8,963	26,238	1.05	2,933
北之島西都署	234,000	5,660	28,510	7.43	5,037
三島都署	3,783,000	21,928	681,583	18.01	31,083
婦都署	5,836,000	18,793	1,259,442	22.34	66,950
計	68,034,768	2,269,671	3,653,790	5.33	1,612

建てしむべき家屋の戸數なども制限して空地の十分なる保有に努めて居る我國の都市計畫も今少しはこの點に注意してもよからうと思ふ。

六 市街地建築物法の適用に於て

現今六大都市其他に適用されて居る市街地建築物法に於ては住宅建物の周圍に保有すべき空地の最小限度を全宅地の40%と定めて居る。これは室内への日照通風の上から云つても住宅地の防火其他一朝事に際しての保安の上から云つても餘りに僅小過ぎる。歐米都市の如く木造家屋を殆んど見ぬ如き町にあつても通風、日照其他の考から少くとも60%位を最小限度として空地の保有を強制せるのが普通であるのに我國都市が、それより少ない空地しか強制せぬと云ふのはなさけないではないか。近時火災に際して人命を失ふ事次第に多き傾向あるのもこの町内の家屋に空地の不足せる爲に起ることが原因である事が多い。一六六六年ロンドンの大火に際しても當時のロンドンが密集狹隘であつた事が大火と成つた有力な原因とされて居る。

我國の如く都市の95%以上が木造家屋を以て埋められて居る都市では空地は歐米諸國の都市以上に廣くとつて置かぬと火事や地震に際して一層困ると思ふ。

尙一朝事の用意と云ふよりも日常時の生活を考へても苟し

獨逸諸都市樹木被地調査表（參考）

都市名	a 建築敷地 ha	b1 廣濠ノ自由空地 鐵道軌道ノ他機關車通敗	b1 園藝樹木被地水面 haノ公	b2 建築市街地 ha	$\frac{b1\times100}{a+b1}$ 交通機關數ノ對スル市街地ニ對スル建築%	a+b1+b2 市全面積 ha	$\frac{b2\times100}{a+b1+b2}$ 樹木被地ノ全市面ニ對スル積%	人口一人當リ被地 (sqm)
Aachen	406.08	293.55	59.42	699.63	41.95	759.05	7.83	4.12
Barmen Elberfeld	1,087.49	423.17	529.67	1,515.66	28.25	2,045.33	25.89	16.61
Cöln	1.334.07	1,053.06	726.35	2.787.13	52.13	3,513.48	20.67	16.94
Dusseldorf	1,012.46	609.55	661.54	1,712.01	40.86	2,373.55	27.87	26.12
Duisburg	980.42	448.83	763.77	1.429.25	31.40	2,198.02	34.97	39.97
Essen. a. Rh	960.28	344.30	51.83	1.204.53	28.58	1,256.41	4.12	2.24
Frankfurt. a. M	1.220.39	716.55	274.77	1.936.94	36.99	2,211.01	12.42	8.20
Posen	338.93	705.06	123.47	1,093.99	64.45	1,217.46	10.14	9.02
Wiesbadem	355.23	256.23	52.09	811.46	41.94	663.55	7.85	5.15

備考　上記中ノ人口ハ舊市ノ分ハ大正十三年十月現在其ノ他ノ分ハ大正十四年十月一日現在ヲ採レリ。
樹木被他中舊市ノ分ハ大正十年八月調査ニ係リ樹種ノ調査ヲ行ヒ新市其他ノ分ハ大正十四年ノ調査ニ係ルナリ

くも住居の用に供する建物にあつてはソレがアパートメントであらうが一戸建の家屋であらうが又長屋であらうが、その周圍には相當廣々とした空地を保有して置かねば到底氣持ちよい生活は出來ない。近時借家人が家を探すのに「庭の廣いうち」を〳〵と云つて探して居るのが大阪の如き經濟本位の町に於ても多いところを見ると市民に於てもこの點に多少覺醒して來つゝあるやうに思ふ、市街地の家屋に於ては此際今少しく空地を各戸に保有せしむるの制度に致したいものである。

特に子供を持つて居る人は子供の遊び場と云ふ事も考へなくてはならぬ。如何に小公園や運動場を造つたからとて子供は毎日そこへ行つて遊ぶと云ふ譯ではない。彼等の一番多くの時間を費す場所は矢張り家の前か後の庭である。家の前に庭がないとつい街上に遊ぶと云ふ事に成る。

街上に遊ぶと云ふ事が子供にとつて如何に危險な而も弊害の多いことであるかに想到するならば多少地價が高いからと云つて自己の家の前に二坪や三坪の空地を保有する事に躊躇はいらぬ筈だ。

日本の都市の如き地價の無暗と高い町では前庭等を住宅の前にとるのは贅澤だと考ゆる人もあらうが、さすれば廣い道路や工場を造る事も贅澤と云はねばならぬ、如何なる施設にも各々目的がある、その目的の貫通が人生生活の上に貴重であるならば多少の犧牲は熄むを止ぬではなからうか。

今參考の爲大阪の子供がどんなところで一番よく遊んで居るかを述べて置かう。

（次の數字は大阪市内の八ッの小學校生徒約五千人に就て調べた或る一日の遊場別人數である）

一、日曜日

にどんなところで遊んだか

公園	一四、〇%
街路	三二、四
空地	一七、九
社寺境内	一〇 二
庭園	一、七
學校内	一、七
室内	一七、七
其他	五、四

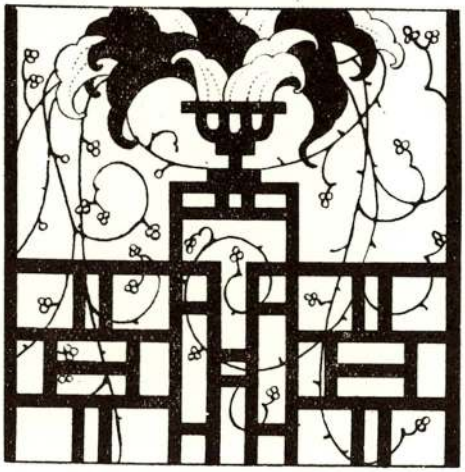
二、普通の日

にどんなところで遊んだか

公園	一〇、三%
街路	三七、四
空地	一五、二
社寺境内	六、八
庭園	二、六
學校内	四、三
室内	一五、六
其他	七、八

この街路とあるのは多く家の前の道路をさして居る今日各戸に前庭がない爲に大部分の子供が街上に出るのである。前庭の必要はこれを以ても分かる。

（終）



住宅の不化良

藤田進一郎

◇

不良住宅改良法を設けて、現在の不良住宅區域と認められた部分を、きれいに掃除してしまふのはよいことだ。不良住宅區域は、都市の大きな掃溜のやうなものである。この大きな掃溜を取り去つてしまはなければ、都市全體の保健狀態、引いては市民の生活程度は向上しない。それは都市全體にとつてはマイナスの財産である。他のプラスの設備がいかに完全にできてゐても、之によつて差引され、相殺されてしまふ表玄關はいかに莊麗華美にできてゐても、流しもとに、汚水の泉をたゝへ、塵芥の山を築いてゐては、見え坊のこけおどしにすぎぬ。

◇

しかし、現在の不良住宅區域を取り除いたゞけでは、不徹底である。同時に、將來に於いて、住宅の不良化することを防止しなければならぬ。豫防の方法を怠ると、隨つて除けば隨つて生じ、いつまでたつても不良住宅の絶ゆるひまはない。こちらを除けば、あちらに生じ、所々轉々して、たゞその所在を變ふるに止まる。それは夏の食物にたかる蠅を、おもひだしたやうに、時々追ッぱらふやうなものである。追ッぱらつたゞけでは、蠅はゐなくはならない。蠅を全滅しやうとせば、必ずや蛆虫の湧いてくる不潔の根源をかッさらへなければならぬ。それと同じく不良住宅區域の改善にとつて、最も根本的に肝要なのは、住宅の不良化する原因に溯つて、拔本塞源的の對策を講ずることである。

◇

一疋の蠅がわくのにも、それに必要な環境があり、それに相應した過程がなければならぬ。一軒の不良住宅の生ずるのも、またその通りである。しかし、人間の不良住宅の生ずる環境と過程とは、一疋の蠅がわいてくる環境と過程とよりも遙かに深刻であり、複雜である。しかして、この環境と過程とは即ち原因に外ならないから、換言すれば、住宅の不良化する原因は、極めて深刻な複雜なものだといふことになるのである。然らばその原因とはどんなものか、昨年三月開かれたイギリスの Royal Institute of British Architects の總會に於ける議題は、ちやうど不良住宅區域の改良といふことであつたが、その席上ジョージ・タックウォース氏の讀みあげた報告は、この點についてすこぶる參考となるものと思はれるから、その概略を紹介しておかう。

◇

氏の説に隨へば、住宅の不良化する第一の、最も顯著なる原因は、その理由のいかんに拘らず、貧乏である。ことに貧乏仕事の流行してゐる區域の住宅は、不良化しやすい。等しく人間の仕事でも、きちんとして、上品で、きれいなのと、いかにも汚ならしくて不愉快で、不規則なのとがある。後者はその從業者の住宅を不良化するが、それは大てい貧乏人の貧乏仕事にきまつてゐる。そこでそれらの仕事と貧乏人とを結びつけて、Gasworks poverty.(ガス貧乏) Coster poverty (呼賣貧乏) Dock and Waterside poverty (船渠岸壁貧乏) Laundry poverty (洗濯貧乏)などゝ呼んでゐる。わが國の都市でも、屑物買や、下駄直しや、羅宇仕かへなどを職業とするものゝ住んでゐる場所は、十中八九までは不良住宅區域である。

◇

第二の原因は、住民の遠心力である。急激に膨脹する都市には、必ず遠心力がはたらいてゐる。交通機關の發達は、市民の住宅を、市の中央部から、郊外の方へと移し、市の中央部は、いはゆる日中人口(デーピープル)ばかりとなる傾向があるが、これを住民の遠心力と呼ぶ。この遠心力のはたらきによつて、中央部から、郊外と、人口が分散されてゆくが、その從事する仕事の種類と、貧乏の程度とによつて、どうしても郊外への移住を容されないものが多い。さういふものは、いつまでも一つところにこびりついてゐなければならないが、さうしてゐるうちに、その周圍を化して、不良住宅區域にしてしまふのである。ニューヨーク市では、古來最も美しく繁華であつた部分が、きまつたやうに最も汚い貧民窟化するといはれてゐるのもこれがためである。現在マヂソン・スクェアーなどがそれだとのこと。目貫のさかり場も交通機關の發達とゝもに氣の利いたものはその過群狀態を脫せんとして續々郊外に移住するが、資力のない貧乏人や、移住してはどうしてもやつてゆけない職業に從事するものらは、そのまゝそこに居据りその邊一帶を暗くむさくるしいものにしてしまふのである。第五十二議會を通過したわが不良住宅地區改良法案提出理由中に『蓋し之等の地區内の居住者は、概ね勞働者、傭人夫その他の小額所得者にして、その職業の關係上、市街地を遠く離れて居住する能はざるの實情なるに因る』とあるのは、

この第二の理由と、前の第一の理由とをひつくるめて一つにしたものである。

◇

第三には、大規模な博覽會跡などが、よく不良住宅地區になるといふ。ロンドン市のアールス・コートや、ホワイト・シティーなどがそれで、昨年開かれたウエンブレーの大博覽會跡なども、よほど心配され、特別の注意が拂はれた模様である。これは博覽會などが開かれて、一時に方々から多數の住民が流れこみ、秩序のない亂雜な大集團をつくるからである第四には、ある一區域の不良住宅を取り拂らうと、そこに住んでゐたものが、從來の生活の習慣をもつたまゝ、ちやうど傳染病のバチルスの四散するやうに、方々へ移住しては、不良住宅の醱酵母となる。

◇

これらの發生原因を前提として、不良住宅の防止策として、ダックウォース氏の推薦した所を要約すると、本通りから遠くかけ離れた袋町などに、勞働者の住宅はなるべくたてないこと。運河や鐵道や堤防のために、貫通交通が妨害されてゐるやうな場所や、以前に塵芥捨て場であつたやうな土地はなるべくこれを避けること。家屋を建てるには、半ば分離した長屋だての代りに、一區劃内に四戸乃至六戸とし、前面は共通でも、後庭は必ず分離すること。家屋内の構造については、新清なる日光や空氣の流通、應接室の設備（應接室は浴室よりも、むしろ望ましい）煙の洩れるやうな煙筒の除去、下水槽や、皿棚や、戸棚や、調理臺などに、留意すること。またあまりに勾配が急であつたり、鋭角に屈曲したりする階段はできるだけ避けること。等である。前記政府の理由書中にまた、『之等の地域は多く地盤の低位なるがため、濕潤なるを免れざるのみならず、その通路は狹隘錯雜を極め、建物及び居住の過密狀態は、建物構造上の缺陷及び不良なる管理と相俟て、地區内居住者の生活狀態をますゝ不良ならしめ……』とあるが、ダックウォース氏のこの意見は、實にこれに對する優秀なる對策と見るべきである。

◇

貧民窟を除去すると同時に、住宅不良化のバルチスが、住民とともに四散して、方々傳染されてゆくのを防止することについては、二三年前に、現衛生大臣ネヴイル・チエムバレン氏が、その意見を發表したことがある。氏の計畫によると、不良住宅地區はまづこれを相當の價格で買收し、それ〴〵の都市の市參事會の監理下におき、絶對に必要の程度にまで改良工事を施し、かのセツツルメント事業で有名なオクターヴイア・ヒル孃の主張する制度に精通した監視人や差配人に引渡し、さうしてゐるうちに、一家族づゝ、家屋をきれいに取扱ふことを會得するに隨つて、新らしく建てられた住宅へと移住せしめ、そこで、かれらの生活と家庭とに、もつと程度の高い、文明的の標準を採用するにおいては、いろ〳〵の利益のあることを徐ろに敎育するのであるが、わが國の不良住宅地區改良法のやうに『地區内居住者の居住に充つべき住宅をその地區内に建設』することを原則とし地區外に建設するの

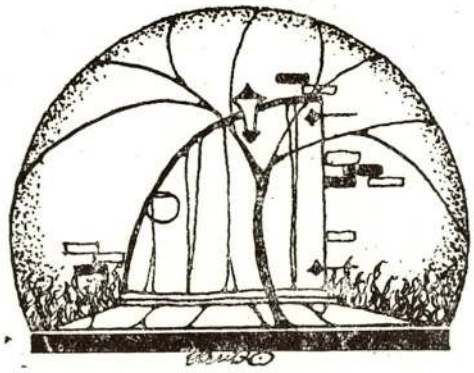
を例外とする狀態のもとでは、專らこの方法によらなければならぬ。

◇

不良住宅の發生を防止するについて、最も根本的な重要方法はこの教育である。無論、住宅を建てるには、それが不良住宅化しないやうに、構造上に十分の注意を拂ひ、一定の最低條件を備へた住宅の外は、一切その建築を許可しないやうにすることなども、素より必要であるが、大たいは、住宅の構造よりも、むしろ、そのうちに住むものゝ心かけ一つで、良き住宅ともなり、不良住宅ともなるのである。住宅の內外を美しく掃除する方法も知らず、衛生思想もかけたものを住はせては、どんな立派な住宅も忽ち化して不良住宅となつてしまふ。そこでイギリスでは、教育をもつて、不良住宅防止の根本方法とする說が行はれてゐる。(『ロンドン・タイムス』教育附錄一九二五年十一月廿八日號參照)學校における家事教育を充實し、徹底せしめて、住宅の不良化するのを防止しやうとするので、いゝ思ひつきである。

◇

つまり家事教育は、裁縫や、料理や、裝飾術だけでは足りぬ。下水や、下水槽の掃除などにも及ばなければならぬといふのである。客間ばかりがきれいでも、かんじんの臺所などが、鼻もちのならぬほどきたなくて、不衛生的だと、不良住宅とは少しも變らないので、この邊の家事教育において、學校は十分に、不良住宅改良がゝりのものと協力する餘地があるのである。不良住宅といつても、半ばゝ習慣の問題である。從來の生活の習慣を改めなければ、いかにその形而下的の環境を改良したところで、忽ち舊來の惡習慣の巢窟となつて、不良住宅化してしまふ。不良の住宅を良き住宅に建てかへるのはよい、不良住宅地區を除去して、新らしく良き住宅地區にするのはよい、しかし、そのうちに住むものが、依然たる舊生活習慣の維持者であるならば、結局、それは徒勞に終るであらう。



土地收用法の改正に就いて

大阪市都市計畫課　岡崎早太郎

土地收用法の改正に就て

一　改正の目的
二　土地評價の方策
三　起業者、土地所有者及關係人
四　現在の土地收用審査會
五　事業認定事務の所管換
六　收用審査會の會長としての地方長官
七　收用審査會の委員としての官吏
八　收用審査會の委員としての地方議會の議員
九　我等の求むる收用審査會
十　餘論

一　改正の目的

土地收用法改正の議は過去數年間に涉る懸案であつた。法文の一部に增補、變更を加ふべく案を具して帝國議會に提出するは恰も內務省年中行事の一たる觀を呈して居た。しかも何時も其の提出時期が閉會間際であり且所謂改正の主眼が制度の根本に觸れる程度の重要事項でなかつた爲に年々歲々審議未了の名の下に握り潰しとなるを例とした。今年亦內務省提出案の一として宣傳せられたるも例年の例として敢て重要視さるゝに至らない間に早くも貴衆兩院を通過し忽然として法律と化した。而して所謂改正に係る條項は全文八十八ケ條に對し三十一ケ條の多きを算し殆ど三分の一强に當る觀がある。然も改正立案者たる田中好君は其の改正の要點は左記事項に過ぎないと謂ふて居る。道路の改良第九卷第四號五三頁―六三頁

一　公共の利益と爲るべき事業の範圍を擴張したこと。
二　公共用地の收用又は使用を許したこと。
三　建物に關し權利を有する者を關係人としたこと。

四　物件の收用又は使用を認めたこと。
五　事業認定權を內務大臣の權限に移したこと。
六　被收用土地物件の處分を制限したこと。
七　土地物件調書の作製を强制したこと。
八　北海道及沖繩縣に收用審査會の制度を設けたこと。

改正の要點が以上列記の範圍以外に出でないことは立案者の說明を俟つ迄もなく諒解することは可能る。要するに八ケ事項を改正する爲に三十一ケ條に亘り加除變更を行ふた迄である。然も我等實務家から見れば更に更に改正を爲さねばならぬ點がある。否、今回の改正に因り大に事務の改善に努めたと宣傳せられある點に付ても尙大に考慮し改善を要する點ありと思ふ。土地收用制度の根幹を爲す收用審査會の制度に一指をも觸れないからである。

由來土地は人類の創造した物でないから之が私有を認容すべき筋合でないとは夙に土地國有論者の唱導した議論であつた。この議論亦一道の眞理ありとは一部論者の共鳴し認識したところである。然も土地の私有を公認し私有財產として特殊の地位を占むる今日かゝる議論や研究にのみ沒頭すべきではあるまい。寧ろ騰落常なき觀ある土地が合理的一定の價格を以て適當に授受融通せらるべく其の制度の確立を促すことが目下の急務ではあるまい乎。蓋し土地に生れ、土地に育ち而して又土地に滅亡する我等としては土地なくしては生活に必要な衣食住を得ることが可能ない。げに土地は我等の存在と生活に於て絶對無二の要素であり基本である。然るに土地を基として得べき衣類、食物及住宅には、各々一定の相場があり、取引授受の方法あるに拘らず、獨り其の根底たり、基本たる土地のみは合理的の相場と賣買取引の方法なしと謂ふ道理があらう乎。土地も亦必然的に一定の價格の存すべき筈である。農業地、林業地、畜產地等に於て生產物の多寡や、經營費の程度を標準として土地の價格を評定し、賣買交換に當り所謂評定價格を基準として行はれある如きは蓋し土地取引に關する穩健なる方法と謂ふべきではあるまい乎。

さり乍ら土地の用途が極めて單調であり且狹き範圍に限られある場合は其の收益も少く、從て地位の評定、價格の算出亦簡易であり、自然紛議を生じ、問題化する事實も出現しない。然るに都市內外の土地は其の用途が廣く且關係が複雜な爲に評定、計算兩つ乍ら容易ならぬ事實がある。位置の關係面積の廣狹、區劃の形狀等に因る收益計算の爲にする事務夫れ自體が夫れだ。所謂價格算出の困難は結局土地相場に一定の基準なきことゝなり、延て一般經濟的取引の上にまで影響を及ぼすことゝなる。

我等は土地收用制度の改善に依りせめて公的取引の場合のみでも合理的評定の方法に依ることゝし遂に一般取引の上に善良な効果を求めたく希望する者である。

二　土地評價の方策

土地の賣買取引の間に行はるゝ不當不正と認め得る行爲は公的授受の場合に於て屢々遭見する所であるが私的取引の場合に於ても絶無と謂ふことは可能ない。否價格の不當は寧ろこの方に多いかも知れない。一例を擧げれば某買主が一構の住宅又は別莊を建築するに當り少許の隣地を必要とし、或は特殊の事業を經營せむとする企業家が特殊の土地を必要とし

之が割譲を要求するに當り所有者の方では土地は祖先以來傳承する家寶である。家寶の珍藏は子孫が祖先に對する義務であるから之が割愛は德義上罷りならぬと謂ふ如き態度もて應酬する。かゝる經濟的勘算を離れたる賣買取引に於ては土地の授受その事は重大視せらるゝも既に授受することに決まれば其の價格の如きは高低共に格別重きを爲す問題ではなき筈だ。然も此の問題は常に價格を以て解決せらるゝ例である。即ち價格だに高ければ祖先以來傳承する家寶の割愛も祖先に對する子孫の義務も一切お構なしと謂ふことに歸着する。

反之土地の所有者が經濟的悲境に陷り土地の賣却以外その窮境を脫する途なき場合に於て隣佑若は土地投機業者に救濟を求むる場合ありと假定せよ。この場合買手側は可能る限り安價に値切り倒さむとするに拘らず賣手側は其の境遇の然らしむるところとは謂へ涙を揮ふて買手の主張に隨ふを例とするが故に其の價格亦平靜な夫れとは受取り難きである。顧みれば土地は性質上永久不動なものであるに拘らず或時は骨董物的に取扱はれて無限な高價で授受せられ又或時は塵芥同樣に二束三文の低價もて取引せらるゝを例とし未だ收益を基礎とする合理的計算に成る評價を見ることが頗る稀である。今や何事でも日に新なる研究これ事とし努めて合理的な生活に向て歩を進めむとする傾向がある。然るに立脚の根據であり生活の基調であり、更に經濟組織に於て源泉的地位を占むる土地その物を授受取引するに當り平素算勘に敏を以て鳴る都市人が何等合理的評價計算の方法を用ひず平然として之を行ひ敢て奇とせざるは何故であらう乎。

土地の賣買取引が收益を目標とする計算方法を度外に置き不合理極まる換價を以て行はるゝことあるも之が私的取引である限り亦止むを得ない場合もあらう。從つて此の場合に於ける物質的の利害損益は常に賣手と買手、即ち當事者雙方の關係のみに過ぎない觀はある。さり乍ら土地の價格に關し一般に合理的評價計算方法の行はれない今日かゝる取引をことゝし顧みるところなきは偶々土地その物を實質的に骨董化する傾を助長する所以にして社會及經濟界を毒し其影響や蓋し揣摩し難きものあるであらう。かゝる不純な協議相談で行はれた賣買取引であるに拘らず或は此の價格を捕へて公定相場の如く吹聽宣傳し、或は一般の土地賣買の場合に實例として援用し就中高價なものは登錄稅の課稅價格に迄採用せらるゝのである。而して公益的施設の爲にする所謂公的授受の場合亦其の價格に依ることを主張し、強調して止まぬ徒を輩出する等殆ど枚擧に遑なき程多くの弊害がある。要するに市街地に於ける土地價格に關し合理的評價計算方法の行はれないことは聖代に於ける一大不祥事と謂はなければならない。勿論賣買取引の場合に於ける價格を悉く此の評價に依らしむることは不可能ならむも評價方法だけは確立せしむる必要がある。即ち市街地に於ける土地に付ても住居地域、商業地域、工業地域と謂ふ如き土地の用途、交通、衛生、保安、經濟等に關する施設若は土地が獨立的に利用の途ありや否や等に關し收益を標準とする合理的評價方法を行ふこと恰も農業用地林業用地、畜産用地、漁業用地等の如くする必要がある。然も此の方法の實行は法令を以て規定することは至難なるべければせめて土地を收用又は使用する場合だけでも行ひ得べく土地收用制度を改善し所謂達觀相場、誅求價格その他實際取

引の例以外に立ち一定の方法に基き土地價格の計算を爲さしむることゝなれば自ら一般の土地取引にも其の方法が活用せらるゝことゝなるべければ單に其の一點のみから看ても優に斯法改正の等閑に附すことの可能ない理由はある。

三　起業者、土地所有者及關係人

我等の所謂公的買買とは法令に依り土地を收用又は使用することを得る事業の爲に必要ある土地を取得し又は之を使用する場合が夫れだ。土地の收用又は使用の手續に付ては法令上夫々綿密な規定がある。即ち土地を收用又は使用することを得る事業は內務大臣之を認定する。（土地收用法第十二條）內務大臣事業の認定を爲したるときは起業者及事業の種類竝起業地を公告する。（同法第十四條）內務大臣の爲す事業認定の公告の後、起業者の申請に依り地方長官は收用又は使用すべき土地の細目を公告し又は之を土地所有者及關係人に通知する。（同法第十九條）地方長官が公告又は通知を爲した後起業者は其の土地に關する權利を取得する爲土地所有者及關係人に協議をする。（同法第二十二條第一項）土地所有者及關係人と起業者間に行はるゝ土地に關する權利取得の協議調はざるか又は協議を爲すこと能はないときは起業者は收用審査會の裁決を求むることが可能る。（同法第二十二條第二項）

而して土地の收用又は使用を爲すに因り土地所有者及關係人の受くる損失は起業者に於て補償することを原則とする。（同法第四十七條）就中收用する土地物件に付ては相當の價格に依り其の損失を補償する。（同法第四十八條第一項）使用する土地に付ては其の土地及近傍類地の料金に依り其の損失を補償する。（同法第四十八條第二項）土地の一部を收用するに因りて殘地の價格を減じ其の他殘地に關し損失を生ずべきときは其の損失を補償する。（同法第四十九條）土地の一部を收用するに因りて殘地を從來用ひたる目的に供すること能はないことゝなつたときは土地所有者は其の全部の收用を求むることが可能る。（同法第五十條）收用又は使用する土地に在る物は移轉料を補償して移轉せしむる。（同法第五十一條）收用又は使用する土地に在る物の分割を來し其の全部を移轉しなければ從來用ひたる目的に使用すること能はなくなるときは其の物の所有者は其の全部の移轉料の支拂を求むることが可能る。（同法第五十一條但書）收用又は使用する土地に在る物の移轉料が其の物の相當價格を超ゆる場合は起業者は其の物の收用を請求することが可能る。（同法第五十二條）土地を收用又は使用するに因り道路、溝渠、墻柵其の他の工作物の新築、改築、增築又は修繕を爲す必要が生じた時は起業者は其の費用を補償なければならぬ。（同法第五十三條）その他土地を收用又は使用するに因りて土地所有者及關係人の通常受くべき損失あるときは法令に其の種類を示さないものでも亦起業者の負擔となるのである。（同法第五十四條）

土地の收用及使用に關し起業者、土地所有者及關係人の權利義務の限界は大要前叙の通りであつて法規の正面から觀るときは寔に公明正大な規定である。その土地所有者及關係人の權利を保護するに於て懇切至極であり起業者の事業に資するに於て到れり盡せりの觀がある。須らく起業者は土地所有者及關係人に臨むに方りこの規定を背景とし合理的な計算に因る損失補償金の支拂を以てすべきである。起業者の相手方たる土地所有者及關係人亦土地は個人の死藏する家寶、骨董類と自ら其の性質を異にし人類の生存上必要あるときは進むで提供せねばならぬ義務ある道理に鑑み損失なき程度に於て

起業者の求めに應ずべきである。況や公衆共同の用に供すべき事業の施設が特定の土地を必要とする場合をやだ。而して兩者の協議不調若は不能の場合に於ける仲裁機關たる收用審査會亦如上の趣旨を躰して裁決するに於ては土地の公的取引のみは常に平靜に行はれ何等情實■■緣の侵入すべき餘地はなき筈だ。然も尙弊害百出して殆ど停止する所なきが如きものある原因は果しで何所にあるであらう乎。蓋し法令は多くの場合形式と手續とを規定するに止まり之が運用は如何しても活きて働く人の力に俟たねばならない。而して土地收用制度運用の要路果して其の人を得て居るか如何乎。否寧ろ法令運用の中樞機關たる土地收用審査會の組織及機能が斯務の裁理に適當であるか如何かを考ふるは斯法の改正を策するに於て看過すべからざる重要事項ではあるまい乎。

四　現在の土地收用審査會

土地收用審査會は內務大臣の監督に屬する獨立の機關と謂はれて居る。現行制度に依る收用審査會は會長一人委員六人を以て組織する。（土地收用法第三十六條）收用審査會の會長は地方長官を以て之に充て議事其の他の會務を統理し會を代表する。（同法第三十七條）收用審査會の委員は高等文官及道府縣名譽職參事會員各三人を以て之に充つ。（同法第三十八條第一項）高等文官にして委員たるべきものは內務大臣之を命じ道府縣名譽職參事會員にして委員たるべき者は其の會の互選である。（同條第二項）收用審査會の活動は起業者と土地所有者及關係人の間に行はるべき協議が不調と爲り又は協議不能の場合に起業者が收用審査會の裁決を求むるに因りて始まる。而して收用審査會は委員半數以上出席するにあらざれば會議を開くことが可能ない。（同法第三十九條第一項）收用審査會の議事は過半數を以て決す可否同數なるときは會長の決する所に依る。（同條第二項）收用審査會の委員が起業者、土地所有者又は關係人なるときは收用審査會の議事に參與することを得ない。（同法第四十條第一項）收用審査會の委員が起業者、土地所有者若は關係人の配偶者、四親等內の親族、戶主、家族、代理人及保佐人なるとき又は起業者、土地所有者若は關係人たる市町村の市長、町村長、合名會社の社員、合資會社及株式會社の無限責任社員、株式會社の取締役及監査役其の他法人の理事及監事なるときも亦收用審査會の議事に參與することを得ない。（同條第二項）收用審査會の委員が其の會の議事に參與する資格を缺ぐ者多數に上り、爲に委員半數の出席を得ること能はざるときは其の要件を具備する（一）道府縣名譽職參事會員、（二）道府縣名譽職參事會員の補充員、（三）道府縣會議員の順序に依り地方長官臨時に指名して之を補充する。（同條第三項）收用審査會の裁決は起業者、土地所有者及關係人の申立たる範圍を超ゆることを得ない。（同法第四十一條）收用審査會は必要と認むるときは鑑定人を選び其の意見を聽くことが可能る。（同法第四十二條第一項）起業者、土地所有者又は關係人及起業者、土地所有者若は關係人の配偶者、四親等內の親族、戶主、家族、代理人及保佐人なるとき又は起業者、土地所有者若は關係人たる市町村の市長、町村長、合名會社の社員、合資會社及株式會社の無限責任社員、株式會社の取締役及監査役其の他法人の理事及監事は之を鑑定人に選ぶことを得ない。（同條第二項）收用審査會は必要と認むるときは起業者、土地所有者又は關係人を呼出し其の意見を聽くことが可能る。（同法第四十三條第一項）收用審査會は事實參考の爲必要と

認むるときは起業者、土地所有者又は關係人以外の者を呼出し其の供述を聽くことも可能る。（同條第二項）

收用審査會の組織及權限の概要は一見したところ起業者の事業遂行を保障し土地所有者及關係人の財産權を保護する機關として間然する處ないと謂ひ得るであらう。而して收用審査會は開會の日より一週間内に裁決を爲さねばならぬことを原則とする。さり乍ら地方長官必要と認むるときは二週間内の延期を爲すことが可能る。（同法第二十七條）　收用審査會が所定の期間内に裁決を爲さざるときは地方長官は事情を具し内務大臣の指揮を請はねばならない。この場合に於て内務大臣は收用審査會に一定の期間内に裁決を爲すべきことを命じ又は收用審査會に代て裁決を爲すべきことを地方長官に命ずることが可能る。内務大臣が一定の期間内に裁決を爲すべく收用審査會に命じた場合に收用審査會が其の期間内に裁決を爲さざるときは地方長官は收用審査會に代つて裁決を爲すべきである。（同法第二十八條）　收用審査會が招集に應せざるとき又は成立せざるとき若は事業の急施を要するときは地方長官は内務大臣の認可を承け收用審査會に代て裁決を爲すことが可能る。（同法第二十九條）而して土地の收用又は使用は收用審査會が自ら裁決すると地方長官が收用審査會に代て裁決することを問はず其の裁決すべき事項は、（一）收用又は使用すべき土地の區域。（二）損失の補償。（三）收用の時期又は使用の時期、期間の三項に限定せられある。（同法第三十五條第一項）起業者の申請が土地收用法又は同法に基づきて發する命令の規定に違反するとき却下の裁決を爲すべきは勿論である。』（同條第二項）

五　事業認定事務の所管替

土地收用法の改正論は同法の運用を内務大臣の監督下に置くの當否から研究しなければならない。改正法に於て内務大臣の活動は收用又は使用の前提を爲す事業認定事務から始まる。蓋し土地に關する事務は從來多く内務省の所管であつた然るに國有財産としての土地の管理及處分が大藏大臣の所管事務となつて以來國有地に關し漸く内務省の影薄きを看るに拘らず今尚同省の所管に屬する事項も尠からずある。道路、軌道、河川、港灣、運河、砂防、上下水道、公有水面埋立等に關する土木法令の執行事務が夫れだ。然も土地を收用又は使用することを得る事業の概目は左記の通り悉く内務省の所管事項のみではない。

一　國防其の他軍事に關する事業。（陸軍省海軍省所管）
二　皇室陵墓の建營に關する事業。（宮内省所管）
三　神社、官公署建設に關する事業。（内閣及各省所管）
四　社會施設に關する事業。（主として内務省所管）
五　敎育、學藝に關する事業。（文部省所管）
六　鐵道に關する事業。（鐵道省所管）
七　軌道、索道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、上下水道、火葬場に關する事業。（内務省所管）
八　電氣に關する事業。（遞信省所管）
九　瓦斯に關する事業。（商工省所管）
十　市場に關する事業。（商工省所管）
十一　衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其の

他公用の目的を以て國、府縣、市町村其の他公共團體に於て施設する事業。（各省所管）

以上は單に土地收用法に定むる事業の概目のみであるが同法發布の後に制定を見た鑛業法、森林法、製鐵業奬勵法、都市計畫法、航空法等にも土地を收用又は使用し得る事業の定あれば其の種類は更に多きを加へたであらう。然もこれ等事業の起業者は當該法令に依り事業の許可、認可、特許若は免許を受けた後でなければ土地收用法に依る事業の認定及土地の收用又は使用の裁決を求むることを得ないから結局二重の手數を重ねつゝある。勿論事業の決定と土地の收用とが別個の法律行爲なる限り所謂二重の行政手續を經るの止むを得ざる場合あらむとするもせめて其の機關を一つにする位の改善は求めなくてはならない。同一事件に關係ある事務處理の爲に異りたる二個以上の機關に兩屬することは起業者としては同一事件に關し二回以上の說明を要し當該機關としては別個の研究と調査を要するだけでも、そこに莫大な時間と勞力の浪費がある。統一主義は時に取りては事務整理の便法となる場合もあらうけれども統一の分業に如かぬ場合も甚だ多い。我等は事務の簡捷と能率の增進とを期する趣旨に於て內務大臣の一手專賣に歸した事業認定權を、事業を主管する各省大臣に分讓することを要求する。謂ふ迄もなく土地の收用又は使用に關する事業認定は畢竟事業遂行の前提たるに過ぎない既に事業を主管する官廳が事業に付適法に權利を附與した上は土地收用に關し假りに內務大臣が事業の認定を爲さない場合ありとするも理由なく之を取消す譯には行くまい。況や土地收用法には土地を收用又は使用し得べきを保障あるに於てをや。然るに本法の規定の如くむば各省大臣主管の政務として許可、認可、特許又は免許を與へたる事業に對し、重て內務大臣の認定を受けしむる所以で、啻に屋上に屋を架するに止まらず。元來同列同等たるべき筈の內務大臣をして特に各省大臣の上位に立ち、各省所管事業の遂行を左右せしむる所以で制度としても不穩當の觀がある。蓋し統一病患者の主張する事務統一位が必要の理由ではあるまい乎。況や國民の實生活と緊切な關係ある事業を律する耕地整理法、森林法、電氣事業法及瓦斯事業法等の如きは當該事業の施設に要する土地の收用又は使用に付き土地收用法の正規的手續に依らず特殊の收用方法を採用し何等支障を生じない事例あるをや。要するに斯かる手續の改善は現に浪費しつゝある時間、勞力の節減のみでなく更に夥き收穫を期待し得べきものある故である。

六　收用審査會の會長　地方長官としての

土地の收用又は使用に關し起業者の申請を容れ之を審理し之に裁決を與ふる行爲は訴訟を審理し之に裁判を宣告する行爲と異ならない。從て收用審査會は特殊な組織を以て構成する裁判所に、收用審査會の會長は其の裁判所の裁判長に相當する。而して裁判官は民事裁判に於ても刑事裁判に於ても苟も其の公正を疑はるゝに足る事情あるときは其の職務の執行より除斥せらるゝを原則とする。民事訴訟法第三十五條、刑事訴訟法第二十四條の規定が夫れだ。

◎參照

民事訴訟法大正十五年法律第六十一號

第三十五條　判事は左の場合に於ては法律上其の職務の執行より除斥せらる

一　判事又は其の妻若は妻たりし者か事件の當事者なるとき又は事件に付當事者と共同權利者、共同義務者若は償還義務者たる關係を有するとき

二　判事が當事者の四親等内の血族若は三親等内の姻族なるとき又はなりしとき

三　判事か當事者の後見人、後見監督人、保佐人又は戸主若は家族なるとき

四　判事か事件に付證人又は鑑定人となりたるとき

五　判事か事件に付當事者の代理人又は輔佐人なるとき又はなりしとき

六　判事が事件に付仲裁判斷に關與し又は不服を申立てられ前審の裁判に關與したるとき但し他の裁判所の囑託に因り受託判事として其の職務を行ふことを妨げず

刑事訴訟法大正十一年法律第七十五號

第二十四條　判事は左の場合に於て職務の執行より除斥せらるべし

一　判事被告人なるとき

二　判事私訴當事者なるとき

三　判事被告人、被害者又は私訴當事者の配偶者、四親等内の血族、三親等内の姻族又は同居の戸主若は家族なるとき親族關係の止みたる後亦同じ

四　判事被告人、被害者又は私訴當事者の法定代理人、後見監督人又は保佐人なるとき

五　判事事件に付證人又は鑑定人となりたるとき

六　判事事件に付被告人の代理人、辯護人、輔佐人又は私訴當事者の代理人と爲りたるとき

七　判事事件に付檢事又は司法警察官の職務を行ひたるとき

八　判事事件に付豫審終結決定若は前審の裁判又は其の基礎となりたる取調に關與したるとき。但し受託判事として關與したる場合は此の限に在らず

要するに判事は其の裁判長たると陪席判事たるとを問はず法定の事項に該當するときは其の職務の執行から除斥せらるゝ規定である。所謂除斥の規定は當に訴訟當事者若は刑事被告人の利益の爲に設くるのみならず實に裁判の公正を中外に闡明し依て國民をして不安の念を抱かしめざるにある。國民利害の裁判蓋し斯くあらねばならぬ筈であらう。

飜て我土地收用法に見るに之と相似たる法文がある。土地收用法第四十條が夫れだ。勿論その文字は同一ではないが其の趣旨精神に異なる所がない。只我等が殊に奇怪に感ずる點は民事及刑事の訴訟法は概括的に判事として裁判長を包含するも土地收用法は單に委員と鑑定人を忌避除斥するに止め會長を職務の執行より除斥しない點である。想ふに地方長官は地方官官制の規定に依り官記を以て任命する官吏ではある。然るに一面に於て府縣てふ公共團體を統轄し之を代表する權限を有する點に於て純乎たる他の官吏とは大に趣を異にする寧ろ自治團體の吏員たる市町村長と酷似せるものがある。只その異なるものは地方長官が官選の官吏として國費の給與を受くるに對し市町村長は公選の吏員として或は公共團體の支出に衣食し或は名譽職を以てする奉公者たる點に存する而して地方長官亦國の官吏として縣又は公共團體の首長として國費又は府縣費を以て所謂公共の利益となるべき事業の施設及經營を任務とするが故に勢ひ土地を取用又は使用する必要に遭遇する場合も尠からずあらう。同時に又地方長官及其の配偶者が被收用地の所有者若は關係人たる場合もあれば其の親族又は姻族等が起業者、土地所有者若は關係人たる事實もあらう。然も如何なる場合に於ても彼は收用審査會の會長たる事を失はないのである。換言すれば地方長官たる自己又は其

の親族若は姻族等が起業者として申請せし案件に付ても將又自己、配偶者、親族、姻族若は地方長官として自ら統轄し代表する府縣が所有し又は關係ある土地を收用又は使用せむとする申請に對しても隨時所謂審査會を開き其の會長として會議を統裁するのである。如斯事態に於て其の裁決は公平なり偏頗なしと高唱するも誰か之を信ずることが可能よう乎。その不可能なることは更に説明を待たないで自ら明かである。況や起業者、土地所有者又は關係人たる市町村の市長町村長が府縣名譽職參事會員として收用審査會の委員たる場合には之を職務の執行から除斥する規定があるではない乎。然るに會長たる地方長官のみに限り之を職務の執行から除斥する規定なきは何としても制度上の一大缺陷と謂はねばならない。既に收用審査會の裁決の公正に疑を挾むに足る缺陷が制度上に現はれたりとせば如何にしてもこの缺陷は塡充の必要がある。國民不安の念を除去する爲に、收用審査會裁決の威信を維持する爲に、政治に私なき表示の爲に、地方長官の職務の神聖を顯揚する爲に。道ふを休めよ地方長官は勅任の官を以て地方行政の重きに任ずる者その職務の神聖に鑑み敢て非違を働く者なしと。蓋し官尊民卑を信條とする所謂舊思想の遺物たるに過ぎない。勅任の名譽官を以て破廉恥の罪惡を犯し囹圄に呻吟する徒の跡を絶たない澆季末代の今日尙彼等の神聖を說く亦思はざるの甚しきではあるまい乎。

要するに地方長官も一頭にして雙手を有する人間である。さり乍ら彼の雙手は各々異なる方面に向て活動し敢て互助せざるを以で特殊の使命とするところに普通人と異なる特色がある。然も彼亦我等と同じく凡夫の列に在りて菩薩ではない凡夫の淺ましさは俗塵に染むこと久しきに亘れば忽ちにして持戒を忘却する。地方長官が公人として其の隻手を以て統轄し代表する道府縣の利益の爲に、將私人として自己又は配偶者若は親族、姻族の所有し又は關係人たる被收用地の保護の爲に、斷じて利用可能ない筈の他の隻手を。即ち收用審査會會長の職權に利用する虞なしと言ふことは可能ない。殷鑑遠からず地方長官が其の本來の權能たる市町村行政監督の場合に於て管下市町村の施設經營せむとする事業と其の自ら統轄し代表する道府縣經營の夫れと利害相容れないとき、巧に監督權を利用若は濫用して所謂市町村を壓迫し其の施設を犧牲に供して顧みなかつた例は一一枚擧するに遑なきほど澤山ある。公共團體なる市町村の當局者が地方長官の監督權行使を以て市町村行政上の一大暗礁として危險視する强ち自家の我儘勝手を敢行せんとする故のみと看ることは可能ない。

親じ來れば收用審査會會長たる地方長官の職務は民事刑事の裁判に際し偶然遭遇する裁判長や陪席判事の忌避事項と大に其の選を異にし其の公職の上に於て業に既に職務の執行から除斥しなければならぬ顯著なる理由がある。然るに現行法に其の規定を缺ぐは立法者の疎慮か懈怠か將偶然茲に陷つたのであるかあらば其の理由を聽きたい。蓋し土地收用法の執行は其の中心者を內務大臣とするも之が運用は主として地方行政廳に求め地方行政廳に屬する官吏の多數及議員を以て其の委員に充當した。而して其の委員に付ては公私兩方面から觀察し苟も忌避すべき理由あるときは之を職務の執行から除斥すること恰も民刑裁判の例の如き規定を制定した。この點に看ても會長に付ても其の必要を感じた事實は之を推測する

に難からない。さり乍ら會長は地方に於ては唯一無二の有識者である。若し之を除斥するときは代つて職に當るべき者なき地方長官であつた。所謂縣替のなき雁首なるが故に止むなく無制限で之を會長に祭り上げ延て不可侵的職務としたに過ぎないであらう。然も之を忌避すべき理由に至りては依然として消滅しない。何とかして改善しなくてはなるまい。

七　收用審査會の委員ての官吏ごし

地方長官を收用審査會の會長とすることは所謂地方長官が土地を收用又は使用し依て公共の利益となるべき事業の執行を唯一の本務と爲さぬまでも少くも主要任務の一とするが故に不可であると言ふことは我等の宿論である。然るに收用審査會委員の組織に至つては更に甚しきものありと思ふ。所謂委員は高等文官三人、道府縣名譽職參事會員三人であるから一見した所ろ左まで氣にする程の必要なきかの觀なしとしない。然も高等文官三人は道府縣内務部長なる書記官（以下單に内務部長と謂ふ）同土木事務に從ふ地方技師（以下單に土木技師と謂ふ）道府縣廳所在地の稅務署長たる司稅官（以下單に稅務署長）である。即ち道府縣又は地方長官を起業者とする土地の收用又は使用の裁決は六人の委員中その五人までを當該府縣の公職者が占め異分子と看るべき者は僅に一人の稅務署長のあるに過ぎない。剩さへ地方長官が會長として會議を統裁するのみならず其の會議は過半數を以て決定する規定であるから所謂道府縣關係の事項に付ては會議の名あつて其の實がない。所謂事業を計畫し、裁決を申請し、且裁決案を製造した人々が集まり只一人の異分子たる稅務署長を壓倒し其の總てを自畫自讀的に裁決するのだから常に道府縣の有利に決定すること敢て奇とすべくもあらぬ。この點に於て現行規定が常規を逸し、公正を缺き、裁決の正確を期し得られないことは蓋し何人も異論なきところであらう。

更に委員たる官吏の智識、經驗及職務の上から觀察して果して斯務の裁斷に適當な組織であるか如何かも好個の研究問題たるを失はない。看よ道府縣内務部長は法律、經濟等專門の學を修め文官高等試驗の考試を經、且相當に實務の經驗を嘗めた人であらうから手續方式が適法であるか、法令の適用に手落かないか位の判斷は蓋し御手に入つたものであらう。然も技術家でなきは勿論、轉任更迭の頻繁なること水草を逐ふて移る昔時の民に相似たる關係に因り所謂土地通でもない既に技術家でもなく、土地通でもなき彼が委員としての働きは單に手續方式が適法であるか法の適用に錯誤はないか如何か位に過ぎない。若し果して斯かる法律顧問的委員だとすれば其の一面に於て殆ど座の温まる遑なき程度の劇務を帶び他の一面に於て道府縣又は地方長官を起業者とする事業の執行機關の一人たる彼を擢きで之に充つる特別の必要ありとは認め得ない。他に適任者が幾等もあらう。然も強て之を選びたる理由あらば聽かまほしきものである。

次は所謂土木技師である。土木技師は其の文字の示す如く現に土木に從事する技師である。その素性はと謂へば最高學府に入り土木工學を修めた者を標準とせむも或は專門學校程度の者もあれば或は多年道路、橋梁、河川、橋渠等の工事の設計、施工又は監督等の事務に從ひ成績優秀の故を以て拔擢

任用された人もあらう。要するに其の專門とする技術に就ては地方で可なり秀拔と稱せられ居る人々であらう。然も土地の收用又は使用を要して行ふ事業は所謂土木工學の應用に因りてのみ實現する施設ばかりではない。蓋し昔は土木と謂へば道路、堤防、河川、溜池の如きは素より家屋、倉庫等の建物の建築に至るまで凡そ土地を基礎として行はるゝ工作一切を包含する術語であつた。然るに現行土地收用法に於て土地の收用又は使用を認容する事業にして土木工學の應用に待つと見るべきものは鐵道、軌道、索道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道下水道位のもので他は殆ど其の範圍の外である。而して現在道府縣の土木技師に依りて經營せらるゝものは通有的には道路、橋梁、河川、堤防、砂防位で鐵道、軌道、索道、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、上下水道等の如きを經營するもの絶無にあらざるも甚しく稀有である。要するに學校を巢立て以來道府縣の土木課を巡勤し鰻上りに收用審査會委員に列するまでに出精した程の人々なれば道府縣自らの施設經營に係る事業に付ては親しく其の設計や計畫に參與した關係に因り人一倍勝れた廉があるかも知れない。さりとて當該道府縣に於て自ら關係した事業以外に係るものに至ては假令其事業が土木工學の範圍内に屬する場合と雖も必ずしも悉く練達堪能だと早合點し無碍に敬意を捧ぐる譯には行かない彼等の經驗と熟練の程度が其の平素從事する事業たる山村水廓に於ける道路、橋梁、河川、溝渠等の簡易工事のみなるが故である。換言すれば彼等は其の自ら擔當する事業に付ては神に近き或は超越する智識を有すと誇り得るであらうけれども其の以外に付ては經驗と熟練に於て我等素人と何等異なるところはなき筈だ。否、習ひ既に性と化れる因襲的熟練の事務たる田舍土木の例に禍ひせられ他の重要な施設計畫を處理するに當り正鵠を誤る場合多きに居るかも知れない。かゝる素性の人を騙て收用審査會の委員に充て其の無智識無經驗を以て重要事項爭議裁斷の任に當らしむるは瘠馬に重荷の感なきを得ない。寧ろ土地收用に關する技術的判斷の方から謂へば市街地に付ては建築技師、農業地に付ては農業技師、山林牧場、漁場等に土地に付ては林業技師、畜産技師、水產技師等が收用又は使用地の生產的價值や殘存地の經營及利用の方法等を考慮し損失補償の評定及裁決を爲すに實際上の便宜多きではあるまい乎。若し夫れ收用及び使用の時期及使用期間の技術的判斷に至ても起業者の企劃する事業は多岐多樣に亘り事業の種類及工事の方法等に關し各專門の智識を要し到底土木技師の萬能を肯定する譯には行かない。所謂事業の種類や工事の方法が田舍土木工事の夫れと軌を一にする場合が尠からぬが故である。

我收用審査會の組織に何かの特色を求めんには委員の一人に稅務署長あることであらう。會長が地方長官であり、三人の官吏委員中の二人までが道府縣の官吏であり、學識經驗ありとでも謂ひたげな顏振の民間委員が悉く道府縣名譽職參事會員なるに看れば收用審査會は宛然道府縣それ自身の機關であるかの觀がある。然も其の批難を免れ得べき理由としては只一人の稅務署長が其の本務關係に於て會長たる地方長官の羈絆以外に立つ大藏系統から入て委員たるが爲である。由來大藏省系統の官吏は松方海東公以來、渡邊無邊俠禪子以來理

智の敏と操守の剛とを以て稱せられた歴史がある。時代が澆季となれる今日から當年を回想すれば眞に夢の如き感なきにあらぬも今尚省の一隅に遺風の躍如たるものあるは心私かに我等の意を强ふするに足る。事の善惡邪正は兎も角として各省の要求、希望又は合議に拮抗して頑强に其の所見を主張し敢て寸歩も讓らず彼等をして一大敵國の恐あらしむるところが夫れだ。我等が稅務署長が收用審査會に委員たるを見て內務系統委員中所謂群鷄中の一鶴とし大なる異彩とするもの實に茲にある。蓋し會議は多數決なるが故に戰はざるに先ち勝敗の數は自ら明かならむも彼が大藏系統一流の意氣込を以てする所論が如何に斯會に影響するかは之を想像するに難からない。

さり乍ら稅務署長の本務は內國稅の調定と徵收にありて土地の收用又は使用に關する事項とは稍々遠緣の關係に居る。その遠緣者を態々內務系統以外に求めて所謂內務系統の機關收用審査會に委員たらしむる所以は彼れ特有の智識及經驗を利用せむ趣旨と見る外あるまい。所謂特有の智識及經驗とは彼れは常に課稅物たる土地、建物等の價格、賃貸料其の他これより生ずる果實を調査し若は之が評價を試み依て根據ある課稅價格を求むることに腐心し且これを實行しつゝある。加之國有財産法の施行以來は國有財産たる土地、建物等の管理及處分が大藏系統の官憲に移り之等の時價評定亦稅務官署の調査に待つことゝなつた。即ち課稅の爲にする土地、建物等の價格、賃貸料その他の果實の調査と賣貸處分の爲にする國有財産時價等の調査及評價に關する智識、經驗が夫れだ。所謂その智識及經驗を借りて土地の收用又は使用の裁決に援用し依て損失補償に關する裁決の統一と公正を期せむとする趣旨ではあるまい乎。果して然らばこの委員亦鑑定人的の夫れに過ぎないと謂ふ結果に歸結するのである。

稅務署長が收用審査會に委員たる理由が果して我等の所見の通りであるか如何かは素より確保の限りではない。假りに我等所見の通りとして果して理想を實現する結果を擧げ得たか如何かと謂ふに必ずしも豫想の通りとは謂はれまい。蓋し彼等の調査及時價の評定亦達觀調査であり推察評價であつて一定の根底の上に立ち科學的に說明可能る數字ではない。況や彼等の天職とし、忠誠とし、功績とする信念が逋脫の防禦であり、反則の發見であり、收入の增加であるの結果は動もすれば其の調査や評價が過察に失し、正皓を誤り甚しきは苛斂誅求の弊に陷れりとの酷評さへある現狀に於てをやだ。古諺に一犬影に吠ねて萬犬聲に吠ゆと謂ふことがある。彼等の全部が悉く邪推と僻目これ事とする輩でないとしても社會が認めて以て單的に徵稅評價と稱し何等重きを置かない結果から看れば所謂賣手の値段で買手の評價ではないと謂ふことに歸着する。稅務官署の調査や評價に對する評判と信用とが既に斯くの如しとすれば之を移して收用審査會に入れたりとして果して何程の價値があらう。要するに始め吉し後ち凶し理想必ずしも不良とは謂はないが其の素質が目的に適せないに因り收穫として擧ぐるに價する効果の認むべきなきを遺憾とする。

八　收用審査會委員ことしての地方議會の議員

道府縣名譽職參事會より委員を出だすの制亦最善と謂ひ得ないことを遺憾とする。所謂名譽職參事會員亦道府縣會議員の一人たることを失はないが元來議員本來の職能は批判と協賛であらねばならない。執行機關に對して不羈獨立の地位を占め公正な批判を前提に賛否を決してこそ議會政治の妙趣はある。假令收用審査會が純粹な執行機關でないとしても個々の人々の爲に利害を判斷し決定を敢てする機關ではない乎。差し當り選擧人たる起業者、土地所有者又は關係人は各々自己の慾望を達すべく運動の餘地を曩に自ら選擧せし議員出身委員の間に發見するであらう。要するに議員を驅て斯かる渦中に投ぜしめ官吏と等しく被批判者の列に立たしむるは切角森嚴なるべき地位を滅茶苦茶に墮落せしむる虞なしとしない

さなきだに公共團體の爲す土地の公的賣買を毒するものに地方議會議員の介入あることは社會公知の事實でない乎。否かくの如きは曾に公共團體の關れのみでなく權威の赫々たる官廳の土地賣買にでも議員の喰入ることは防ぐことの可能ない一種の時弊と謂はれて居る。復興局の神田、淺草事件が夫れだ。鐵道省の鶴見事件が夫れだ。その他社會の耳目に遠き津々浦々で行はれある秘事怪事に至ては蓋し枚擧に遑なき多數に上りあるであらう。地方議會と緣の遠き官邊でさへ既に斯くの通りとすれば誰しも地方議會と緊密な關係にある道府縣廳、市役所、町村役場に其の事實なしと斷定することは可能まい。

我等は比較的多くの府縣廳、市役所、町村役場を見た。その都度千篇一律的に遭遇せしものは土地の買收又は賣却を擔任する課長や主務者の傍に數人の紳士が詰め懸け居る事實である。夫が揃ひも揃ふて地方議會の議員が其の選擧人を被買收者若は買受人とする土地に關し被買收者、買受人の爲に其の土地の値上げ若は値下げを題目とする懇合だと聽くに至ては驚かざるを得なかつた。我等は强ち議員が他人の爲に代理を爲し代辯を爲すことを非とする者ではない。議員亦人間であるからには他人の爲に代理を爲し代辯を爲すの止むを得ない場合もあらう。否代理、代辯を本業とし代理業代辯業を以て一家の生計を立つる者が議員たる場合もあるべければ斯かる行爲を見て直に叛逆的罪惡視すべき謂はれは素よりない。議員は選擧人の爲に指示又は委囑を受くべからず（府縣制第四十六條。市制第五十八條第一項。町村制第五十四條第一項。）と謂ふ規定はある。そは當該議會の議事に關し議場で爲す言論、行動の自由を保障し選擧人等の羈束制肘から脫せしむる趣旨であつて議場外に於て爲す個人としての活動を左右する規定ではあるまい。從て上記の如き場合に於て爲す代理代辯は勿論禁令の範圍外であらう。否かゝる場合即ち議場外に於て爲す所謂代理代辯は常に個人の資格に於て爲すべき筋合であるから一々法令を以て干與すべき限りではなき筈だ。然も數多き議員中には選擧人の爲に爲す所謂代理代辯は恰も議員當然の職務であり且職務中の重要な部分を占むる乎の如く粧ひ頻りに代理代辯すべき事はなき乎と選擧區内を漁り歩るき次期の選擧に資すべく選擧運動を爲す不心得者さへある。機微を察するに敏なる選擧人側は事苟も官廳公署に交涉ある事件は之が解決に議員を利用するに如くなしとするに至つた。即ち議員利用は之を内にしては自家の勞費を節約し之を外にしては議員その人に滿足を與ふるてふ一擧兩得の利あるが故である。その甚しきに至ては土地の買收若

は賣却等に當り萬一自己に利益ならざる事あらむ乎選擧人は先づ以て議員に向て當局の不當を訴ふると共に議員の不用意を責むる者もある。議員亦自己の選出された選擧區の地内に於て何等議員に相談することなく土地を買收若は處分するは恰も議員の縄張でも侵かすものゝ如く思惟し動もすれば怨すべからざる罪惡でも犯した者に對する警察官の如き態度もて當局者に詰寄る狂態を演ずる場合もある。

要するに議員氣質は苟も事の選擧人に關する限りは之を利用して選擧運動に資する嫌があり選擧人亦飽くまで清かるべき一票を好餌として議員氣質に迎合せむとする心術ありと看る。當らずと雖も遠からざる觀なしとは謂はれない。然るに其の議員を驅て收用審査會に委員たらしむるは所謂委員の職務を公然選擧運動に利用すべく認容すると何等異ならないのである。而して公平に嚴正に事務的に進ましめなくてはならない筈の土地の收用又は使用の裁決を政治的ならしむる惧なしとしない。我等が道府縣名譽職參事會員の收用審査會に委員たるを不適當とするは實に茲に因由するのである。

九　我等の求むる收用審査會

土地の收用又は使用に關しては法令の上に種々雜多な手續を要する規定がある。この幾多の手續に於て收用審査會の裁決を受くるに至らずして土地を取得し得る場合もあるが土地收用法の運用は結局收用審査會の裁決に依り土地を收用又は使用するに至るを以て最終の目的とする。この點から見て土地收用法運用に關する中樞機關は收用審査會で其の餘は同會を活動せしむる迄の補助機關に過ぎないと謂ふことも可能るも然るに現制度の下にある所謂收用審査會は既に述ぶる如く其の組織に於て不純な點が尠からずあるが故に延て其の裁決に威信がない。從て本法の改正は如何しても同會の組織を主眼としなくてはならない。即ち改正の第一着手として現に地方長官を會長とし地方廳を中心とする同會を地方裁判所に移し地方裁判所長を中心として組織することにしたい。現行法に於ても審査會の裁決に係る損失補償金に對して不服ある者は通常裁判所に出訴することを得（法第八十二條）る規定なれば全く緣故なき所に所謂藪から棒を出だす如き改正では勿論ない。元來地方長官は國の官吏として將又地方公共團體の管理者として自ら起業者と爲る場合もあれば其の公共團體が被收用地の所有者なるときに所有者を代表する場合もある。加之其の被監督者たる市町村其の他の公共團體が起業者、土地所有者又は關係人たる場合が屢々ある。かゝる狀態に於て假令その裁決に公平を缺くものなしとするも動もすれば偏頗に流れ不當に陷ると疑はるゝ場合もあらう。反之裁判所は如何なる事件に付ても自ら起業者と爲り若は土地所有者關係人たる場合がないから其の裁決の公正を疑はるゝ惧が少しもない。是れ我等が收用審査會を地方裁判所に移し地方裁判所長を同會に會長たらしめむとする理由の一である。

收用審査會は土地の收用又は使用に關し、起業者と土地所有者又は關係人との間に立ちて其の爭議を裁決する機關なることは又說明を待たないところである。然も其の被收用地若は被使用地の狀態が複雜を極むるのみならず土地を收用し又は使用權を得て起業者が行はむとする事業の種類亦多岐に涉るを以て之が爭議の解決に任ずる者は土地及事業に付特殊智

識の所有者であらねばならない。然るに現行制度の定むる少數の常任委員を以てしては在らゆる場合に必要な智識の具有を期待することは可能ない。況や現行法に依り内務大臣の命ずる高等文官三人及道府縣名譽職參事會員三人を以てする委員組織は既に述ぶるが如く其の選任範圍が狹きに失し延て適材を選び難き事實あるをやだ。我等は之が改正案として委員の六人制を維持するに異存なきも此の機會に於て委員の固定制を廢止し常に適材を擧ぐることを期し其の選任範圍を左の如く擴張せむとする者である。

一　判事　二人

地方裁判所判事又は其の地方裁判所管内區裁判所判事の中より地方裁判所長之を命ず。

二　學識經驗ある者　四人

地方裁判所長之を命ず但し内二人は事業及土地に關し技術的智識及經驗ある者に限る。

想ふに土地の收用又は使用に關し收用審查會に於て裁決する事項を(一)收用又は使用すべき土地の區域。(二)損失の補償。(三)收用の時期又は使用の時期及其の期間。とすることは現行法と異ならない。故に其の裁決は法的判斷を要すると共に技術的及常識的の判斷を必要とする。若しこれが普通に謂ふ裁判なるときは所謂技術的及常識的の判斷は先づ以て其の資料を鑑定人の鑑定に求めて裁判すべき順序であらうけれども土地の收用に付ては鑑定の範圍を成るべく縮少し努めて委員の直接判斷に求むる主義を尊重することゝする。この主義を一貫する爲には比較的委員の人數を多くし且成るべく廣い範圍から智識を求め之を具有せしめなくてはならない。我等はこの趣旨に立脚して委員の六人制は維持するが現制の如き固定制度を廢止し代ふるに遊動制度とし必要に應じ適實な委員を任命することゝする。即ち法的判斷の爲には常時斯務に從ひ熟練と經驗とに富む判事を以て之に充てむとする。

法的判斷を判事に求むることを認むる上は同一の理由に因り技術問題に付ては其の判斷は之を技術家に求むる必要を認めぬ譯には行かない。現行法亦技術的智識を必要とし一人の技師を常任の委員として居る。さり乍り所謂技術家委員は相異なる二方面から觀察し判斷するところあらねばならぬ關係に於て一人の常任者では事たらない。何をか相異なる二方面と謂ふ。一は起業者の行はむとする事業方面からの觀察で他の一は收用又は使用せらるべき土地方面からの判斷である。前者側から看て其の必要とする土地の區域、收用の時期又は使用の時期及其の期間が果して適當であるか如何かを考慮し判斷するに付ても其の事業が多種多樣である關係上萬能的智識の所有者でない限り常任固定の一人では如何ともすることは可能まい。即ち鐵道の爲には鐵道技師を要し、道路の爲には道路學者を要し、其の他電氣、瓦斯、各種の建築等數限りもなく澤山な事業に關し皆夫々の專門家の觀察と判斷に待たねばならない。然るに這般の需要に應ずべく常時其の專門家を選仕し置くの困難なるの事情に鑑みるときは時々の必要に應じ其の都度適任者を委員に擧げ適當の判斷を求むるの外はないのである。更に後者に付て考ふるに起業者が事業を企畫するや其の事業地として選擇する場所には市街地もあれば村落若は無人の境もあらう。就中市街地に付て謂ふも市街地には住居地域、商業地域又は工業地域等の區別がありて土地の

用途に相違と特色があり其の相違と特色に依り各々異なる價値がある。村落亦宅地、田畑、山林、原野、牧場又は漁業地等ありて又各々異なる價値を有して居る。かゝる千差萬別の狀態を觀察し土地の收用又は使用に因る損失を見積り利益を計算し合理的の判斷を下す爲には市街地に於て主として建築家の鑑識に待つ必要あると同樣に農業地、林業地、畜産地、水產漁撈地等に於ても亦々特殊智識を有する者の判斷を求めなくてはならない。然も斯かる狀態に徵し固定的只一人の技師に之が適確な判斷を求むるの實際に適せないことは前者の場合と異なるところはないのである。

土地の收用又は使用に關し法的判斷と技術的判斷の機關としては前述の改正だに行はるれば略完きを期すべきである。さり乍ら物の解決は必ずしも法律と技術とのみで完成するものではない。更に社會の事情に精通し世間の經驗に長じた所謂處世學者の介入を必要とする。如何に法的判斷が巧妙であつても技術的結論が合理的であつても之れが時代の社會相に合致しないとすれば如何程の價値もあるまい。我等は道府縣市町村の吏員、商業會議所、農會、水產會、畜產會、山林會その他公の機關に職を有する者の中より更に二人の委員を出だしこの要求を充たすべく收用審查會を組織し依て同會の裁決に嚴なる光彩と權威を副へ延て其の威信の發揚に努むると共に此の裁決に不服ある者は控訴院に出訴することを得せしめ訴願又は行政訴訟を爲し得る制度を廢止する。而して會長及委員に對し職務の執行より除斥する制度としては會長及判事より出づる委員には判事が法律上其の職務の執行から除斥せらるべき民事訴訟法第三十五條の規定を準用し其の他の委員には現行土地收用法第四十條の規定と同趣旨の規定を設けて適用せむことゝする。要するに苟も裁決の公正を傷ふ嫌ある疑點あらば根本から之を除却せむとするのである。

十餘論

土地收用法も前叙の如く內務大臣から事業認定と收用審查會に關する特權とを剝奪し前者は之を事業の主管大臣に分讓し後者は其の全部を地方裁判所に移替することゝし更に收用審查會と地方長官との緣故を斷絕せしむることゝすれば爾餘の問題はこの改正に伴ふ枝葉末節に適當の整理を施せば足るのである。所謂整理的改正を要する點の二三を紹介すれば大要左の如きものがある。

◎立入測量許可制度の廢止。現行法に於ては事業の準備の爲必要あるときは起業者は事業の種類及立入るべき土地の區域を定め地方長官の許可を要し、宮內省又は國の起業に係るときは宮內大臣又は主務大臣は之を地方長官に通知を要する。法第九條第一項然るにこの許可又は通知は次項に定むる如く其の許可又は通知ありたることを土地占有者に知らしむる前提として必要を生じた規定であるから其の目的だに達するを得ば必ずしも億劫なる許可制度を必要としない。この趣旨の下に此の規定を次の如く改正する必要がある。

『事業準備の爲必要あるときは起業者は事業の種類、立入るべき土地の區域、其の日時及場所を定め市町村長に屆出づべし但し宮內省又は國の起業に係るときは宮內大臣又は主務大臣は之を市町村長に通知すべし。

市町村長前項の屆出又は通知を受けたるときは其の屆出又

は通知に係る事項を公告し又は之を其土地占有者に通知すべし但し公告又は通知に要する費用は起業者の負擔とす』

◎事業認定に付地方長官經由制度の廢止。起業者が事業の認定を受けむとするときは事業計畫書及圖面を添へ地方長官を經由し內務大臣に申請すべし（法第十三條第一項）とする現行制度は土地收用法運用の中樞機關を內務大臣及地方長官とせし關係から出發した規定である。これ亦次の如く改むるの必要があらう。

『起業者が事業の認定を受けむとするときは事業計畫書及圖面を添へ主務大臣に申請すべし』

◎地方長官の爲す土地細目の公告又は通知廢止。改正法及收用手續の第一着手として內務大臣の認定の公告の後起業者の申請に依り地方長官は收用又は使用すべき土地の細目を公告し又は之を土地所有者及關係人に通知するを要し、（法第十九條第一項）軍機に關する事業に付ては主務大臣は地方長官に收用又は使用すべき土地の細目を通知し地方長官は之を土地所有者及關係人に通知を要す。（法第十九條第二項）と規定するもこれ亦地方長官を介入する必要ないから次の通り改正し官廳事務の煩冗を省かむとする。

『事業の認定の公告の後起業者は收用又は使用すべき土地の細目を公告し又は之を土地所有者及關係人に通知すべし。軍機に關する事業に付ては主務大臣は收用又は使用すべき土地の細目を土地所有者又は關係人に通知すべし』

以上の外現行法及改正法には地方長官や內務大臣の權能に關し尙幾多の規定はある。さり乍ら既に事業認定に關する權限を主務の各大臣に分讓し收用審査會に關する權能の全部を地方裁判所長に移管する上は一般的には何ものも殘らない筈だ。要するに土地收用法今後の運用は特殊關係の場合の外全然內務大臣及地方長官の手を離れ事業を主管する各大臣、收用審査會、地方裁判所長及市町村長に依り行はむとするのである。從て爾餘の細則的規定の配合は主たる事務の分配に基き整理を加ふれば足るのであるから茲には更に細說するの煩を省き斯道の專門家の措置に一任せむことゝし只この機會に於て起業家、土地所有者、土地關係人並社會一般の共鳴の下に一日も早く斯法改正の曙光に接せむことを望みて擱筆する

（昭和二年五月二十二日）



自由空地

法學博士　關一

一、都市計畫最近の思潮として最も注目を要するものは自由空地の問題である。自由空地は都市住民の保安衛生に缺くべからざる要素である。從來の考に依れば都市の市域は凡べて建築地である。たゞ其内に現在既に建築物ある土地と未建築地則ち將來建築せらるべき土地との區別があつたに過ぎない。故に空地とは現在建築のない「殘存物」である。併し大都市の市域を擧げて建築物を以て蔽はれたる土地とするときは市民の保安衛生を保證することは不可能であつて、其都市は人間の住い難き都市となることを免かれない。都市計畫は市民の活動及住居の爲に土地を如何に使用すべき乎を豫定するものであつて、土地の用途から見れば、都市の地域を建築地と非建築地とに區別せなければならない。非建築地とは未建築地ではない、永久建築物を許さゞる自由空地である。此自由空地、綠色地域を都市の地域内に保留することを都市計畫の第一義とする思想は最近に顯はれた新傾向である。

二、併し、都市、殊に、大都市に於て自然の勢に放任すれば其發展に伴ひ尺寸の空地を有せざるに至ることは明白の事實である。從て自由空地を維持せむが爲に法制上の制限を設くることを要する。我國の都市計畫法は地域、地區の制度を認めて居るが、市全體を商業、工業、住居の三地域に分割する主旨を以て規定せられ、僅に風致地區の指定を認めたが其規定は疑義の多い曖昧のものである。斯の如き法制は都市の將來の爲に必要なる自由空地を維持するに甚しく不完全のものである。普國都市計畫法草案が自由空地の維持に重きを置きたる實例は最も注目すべき制度である。

三、自由空地の面積と市の全面積との割合は各都市の事情に依りて一定することは不可能である。或專門家は理想として將來の建築地面積(工業地域、交通地域等を除き)の約二倍

を要すと說くものがあるが大伯林、大キヨルン兩市の計畫に於ては市域の約四割乃至五割を永久空地として居る。

四、上の如き廣き面積の自由空地を維持するには、風致本位、鑑賞本位の公園遊園のみに依ることは、都市の財政上堪へ難き所であるのみでなく、國民經濟上から見ても不利益である。勿論、我國に於ては公園遊園の發達は從來甚しく閑却せられて居つて其擴張は焦眉の急務であるが其詳細は折下氏の報告に讓ることゝし、休養を目的とする風致鑑賞本位の公園遊園等の外に實用的の空地を設定する必要を主張したい。此實用的の自由空地の第一は市民の體育を目的とするものである。都市住民の保健上運動競技の必要は近年歐米各國に於て一般に認識せらるゝ所となり、之に關する施設も大戰後顯著なる進歩を見た。獨逸の體育委員會は一九二〇年體育場法草案を公にし各市に人口一人に付二平方米の遊戲運動場を設くる義務を負はすことを主張して居る。此計算は二歳乃至十歳の兒童に對し半平方米、其以上の少年成年に對し二・五平方米を要すとの標準を認めたのである。實用空地として第二に重要なるものは農業的勞働をなすべき土地であつて、上述の普國都市計畫法草案には實用綠地（ヌツツ・グリューン・フレッヘン）と名づけて、都市住民の身神の健全の爲に永久に農林業を營むべき地域を市域內若くは其附近に保留すべきことを認めて居る。蓋し競技運動以外に都市住民の自然と親しむべき農業的勞働の必要を認識するものが增加したことは田園都市主唱者の功績である。農業經濟の原則からも、都市の附近は穀作農業には適しないが園藝其他の如き集約的農業經營に依つて相當の收益を擧げ得る譯である。從つて市域內若くは市の附近に永久農地を設くることは經濟上不合理ではない近來歐洲に於て「ラウベン・コロニー」又は「アロットメント」の制度が著しき發達を遂げたことは我國の都市計畫に於ても考慮を要する現象である。以上の體育、農耕の目的の爲に相當の空地を準備する外、墓地の公園化も最も重要な問題である。又神社、寺院地若くは學校、動植物園其他の敎化機關の用地の綠化美化を計ることも綠化政策の一題目である。

五、上述の自由空地の設置、維持管理の費用は租稅に依る市收入のみを以て支辨し難きことは論を俟たない。其使用に依つて直接利益を受くるものに相當の負擔を課することを要する。例へば競技運動者又は其團體、小農園の使用者等から使用料を徵收し、公園遊園の附近住民に特別負擔を課する等である。且つ凡べての自由空地を都市の施設として設置、經營することも甚だ困難である。私人の庭園の開放の如きも一方法であり、公益法人例へば體育競技を目的とする各種團體の經營等に俟つべき所も少くない。また國有若しくは公有の土地にして直接官、公用に供せらるゝものを除き現在の空地はなるべく將來之を空地として維持する方法を講ずべきである。此他國家又は不動產金融機關は自由空地の施設に對し建築資金供給と同樣の便宜を與へ、都市は農會等と協力して園藝、蔬菜花卉栽培、養鷄其他の集約的農業の智識の普及、生產品販賣の便宜を計り農業的施設を奬勵することを要する。

六、大都市に於ては、其市域內に於て到底十分なる自由空地を包擁する能はざることを常とし都市の附近及周圍に於ける綠地の保存に對して、一定の計畫を樹てゝ都市生活の安全を期さなければならない。此目的を達するには地方計畫（リ

ーショナル・プランニング）を必要とする。我國に於ても關東地方では東京橫濱を含んだ地方計畫、關西地方では京都、大阪、神戸を含んだ地方計畫を要すべき時期に達して居る。

左に參考のため大阪市空地及樹木敝地調査表並に獨逸諸都市自由空地調査表を掲げむ

大阪市空地調査表（大正十四年末現在）　大阪市公園課調査

A	B_1	B_2	A+B_1	$\frac{A+B_1}{B_1\times 100}$	A+B_1+B_2	$\frac{B_2\times 100}{A+B_1+B_2}$	$\frac{B_2}{人口}$
	現在ノ空地						
建築敷地	鐵道軌道路其他交通機關敷地	田畑公園水面其他空地	建築市街地	交通機關敷ノ建築市街地ニ對スル%	市全面積	空地ノ全市面積ニ對スル%	人口一人當リ空地
148.75.080坪	3.741.240坪	30.917.749坪	18.516.320坪	20.09	49.534.069坪	62.41	14.61坪

備考

1. 此統計ハ第二十四回大阪市統計書ニ據ル　2. 本表ノ算出方ハ下記明細表ニ依ルモノトス　3. 大阪市人口2.114.804人
4. 舊大阪市大正十三年末現在空地調査ヲ附記スレバ

空地ノ全市面積ニ對スル百分率ハ……36.09　　人口一人當ノ空地ハ……4.23

交通機關敷ノ建築市街地ニ對スル百分率ハ……20.32

同上明細書

		A 町		B_1 町		B_2 町
官有地	第一種及二種ノ一部	123.51	――	――	第一種及第二種ノ一部	247.03
	第三種宅地	6.71	道路堤塘鐵道係路敷地其他	690.73	第三種御料地、堂宇敷地、墳墓、其他	19.13
	――	――	――	――	公園	12.34
	――	――	――	――	河川溝渠等	929.62
	第四種寺院敷地ノ一部	17.84	――	――	寺院敷地ノ一部	35.70
	第四種學校敷地ノ一部	3.93	――	――	學校敷地ノ一部	3.93
	計	151.99		690.73		1.247.75
民有有租地	宅地	4.356.55			田畑	7.183.41
					池沼	120.85
					山林、原野、雜種地	789.43
	計	4.356.55				8.093.69

民有免租地	學校敷地ノ	1/2	74.86	——	——	學校敷地ノ	1/2	74.86
	府縣社地鄉村社地ノ	1/3	2.26	——	——	鄉村社地ノ	2/3	4.36
	火葬場敷地		2.40	鐵道及軌道用地	176.61	用悪水路、溜地、井溝運河用地		382.78
	公官衙敷地		10.50	水道用地及道路用地	295.94	公園		36.50
						堤塘其他		109.28
						墳墓、隔離所		41.81
	計		90.02		472.55			649.59
民有年期地	開墾地ノ	3/3	92.70	——	——	開墾地ノ	2/3	185.60
	新開地ノ	1/3	251.40	新開地ノ	1/3	新開地ノ	1/5	83.80
	地目變換地價据地ノ	1/5	15.70	——	——	地目變換地價置地ノ	2/5	31.40
	——		——	——	——	荒地		14.00
	計		359.90		83.80			314.80
	總計		町 4.953.86		町 1.247.08			町 10.305.83
	坪換算		坪 14.875.080		坪 3.741.240			坪 30.917.49

大阪市樹木敷地比較表

各區の面積及人口に對する樹木敷地面積の比較

（都市計畫大阪地方委員會調査）

區別	區面積（坪）	區人口（坪）	區樹敷地面積（坪）	區面積100ニ對スル樹敷地面積（坪）	區人口1000ニ對スル樹敷地面積（坪）
大阪市	55,577.768	2,214,322	1,662,967	2.99	7.51
舊大阪市	17,721.624	1,431,500	554,318	3.13	394
南區	2,985.984	424,800	206.174	6.91	485
東區	2,286.144	231,900	156.806	6.86	676
西區	8,529.372	448,400	97,460	1.14	217
北區	3.6 5.824	326,400	93.875	2.55	287
新大阪市	37,856.144	782,822	1,108,649	2.93	1,416
住吉區	11,149.520	140,907	535,986	4.82	3,810

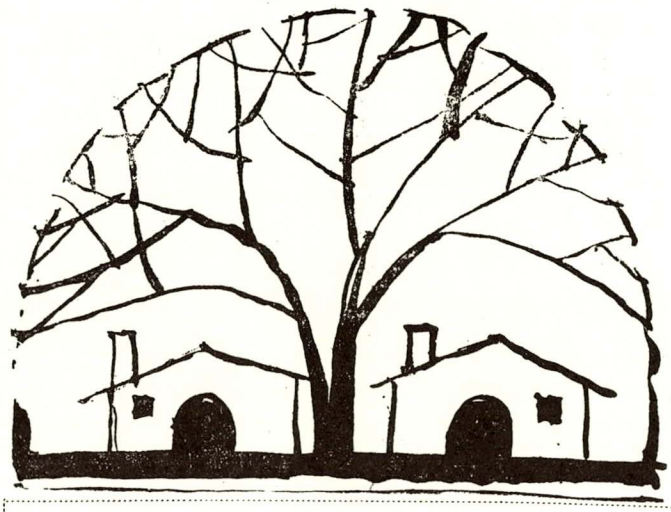
西成區	2,132,516	137,630	49,463	2.32	359
東成區	9,397,248	236,141	176,433	1.88	747
東淀川區	8,782,862	145,812	235,988	2.67	1,618
西淀川區	6,393,998	122,332	110,779	1.72	905
都市區域內郡部	12,507,000	55,349	618,951	4.95	11,182
中河內郡	2,504,000	8,963	26,288	1.05	2,933
北河內郡	384,000	5,660	28,510	7.43	5,037
三島郡	3,783,000	21,928	681,583	18.01	31,083
豊野郡	5,836,00	18.79	1,259,442	22.34	66,950
計	63,084,768	2,269,671	3,658,790	5.33	1,612

備考　上記中ノ人口舊市ノ分ハ大正十三年十月現在其ノ他ノ分ハ大正十四年十月一日現在ヲ採レリ
樹木敷他中舊市ノ分ハ大正十年八月調査ニ係リ樹種ノ調査ヲ行ヒ新市其ノ他ノ分ハ大正十四年ノ調査ニ依ル

獨逸諸都市自由空地調査表

（都市計畫大阪地方委員會調査）

都市名	a	b_1	b_2	$a+b_1$	$\frac{b_1\times1000}{a+b_1}$	$a+b_1+b_2$	$\frac{b_2\times100}{b_1+b_2}$	人口一人當リ樹廢地
	建築敷地 ha	廣義ノ自由空地		建築市街地 ha	市街地ニ對スル交通機關敷ノ建築 %	市全面積 ha	積ニ對スル樹木敷地ノ全市面 %	(sqm)
		關敷其ノ他交通機鐵道軌道路	園墓地水面樹木敷地公 ha					
Aachen	406.08	293.55	59.42	699.63	41.95	759.05	7.83	4.12
Barmen Elberfeld	1,087.49	428.17	529.67	1,515.66	28.25	2,045.33	25.89	1,651
Cöln	1,334.07	1,053.06	726.35	2,787.13	52.13	3,513.48	20.97	16.94
Dusseldorf	1,012.46	609.55	661.54	1,712.01	40.86	2,373.55	27.87	26.12
Duisburg	980.42	448.83	768.77	1,429.25	31.40	2,198.02	34.97	39.97
Essen. a. Rh	960.28	344.30	51.83	1,204.58	28.58	1,256.41	4.12	2.24
Frankfurt. a. M	1,220.39	716.55	74.77	1,936.94	36.99	2,211.71	.42	8.20
Posen	388.93	705.06	123.47	1,093.99	64.45	1,217.46	10.14	9.02
Wiesbadem	355.23	256.23	52.09	811.46	41.94	666.55	7.85	5.16



火災防備と建築

大阪府消防課長　土井末吉

火災と建築が多大の關係を有つて居ることは言ふまでもないが、火災防止の上からは、建築上豫防的に注意して貰ふ事と、一度び火災があつても、之を其局部的に防止し得るやう注意して戴けるならば、非常に幸である。

消防のことは、火災の結果から歸納的に見て、其方面に對して相當の力を盡すのは當然の歸趨である、即ち最近三ケ年間（大正十三年、同十四年、昭昭元年）の大阪市に於ける火災の結果に付て概觀すると、

件數——四百五十回乃至七百八十回

損害額——百五十萬圓乃至二百萬圓

を上下して居る、尤も十四年から市の區域が擴張された關係上十三年度は少く、其以後に於て非常に殖えて居るのであるが、其上半燒以上の、即ち火が上まで抜け出た眞の火災件數は

大正十三年——百十八回

大正十四年——二百二回

昭和元年——二百四十八回

であつて、小さいものは損害も輕微であるが、大きなものは非常な損害額に上つて居る、即ち右半燒以上の火災に付て燒失坪數百坪以上、五十坪以上、五十坪以下の三つに區分し、其度數と損害額を擧げれば、次表の通りである。

年度	百坪以上 度數	百坪以上 損害	五十坪以上 度數	五十坪以上 損害	五十坪以下 度數	五十坪以下 損害
大正十三年	二七	一、〇二一、三〇一	一四	一七、四六五	七六	二五、三三
同　十四年	二六	九二一、五四四	二五	二八、五八一	一六一	三五八、六三一
昭和　元年	二七	一、一八五、二四二	三〇	二八八、六六七	一九一	四七八、一三三

更に其燒失總坪數は

大正十三年——八千百三十三坪

大正十四年——八千九百十六坪

昭和　元年——一萬九百三十一坪

であるが、其中一件百坪以上燒失のものだけの總坪數は

大正十三年——五千百九十坪

大正十四年——四千百三十五坪

昭和　元年——五千四百九十三坪

であつて、是が燒失總坪數の約六割を占めて居る。

尙ほ之を建築物の種類に依て區分して見ると

年度	住家	工場	公衆用建物	其の他
大正十三年	七九一	二、〇一五	一、三四六	一、〇三八
同　十四年	一、〇八七	一、五〇〇	五八六	九八二
昭和　元年	六〇一	二、〇八〇	一、四五二	一、三八〇

斯う云ふ割合になつて居る、即ち五十坪以上の大きな火災を除けば、損害は餘り大したものでない、而も五十坪以上の火災には住家は極めて少なしと、工場納屋等が最も多く、次いで公衆用の建物である、從て若し大阪市の火災中工場と公衆用建物に關するものを除けば、他は殆ど言ふに足りない程のものであると云ふ結論が如上の數字に依て出て來る譯である

何故に斯の如く工場に火災が多いか——是は工業の都市である大阪市としては當然の趨勢であるけれども、併し其建物の數並に面積から比較して、其發生度數が多いのみならず、損害が頗る大きいのである、之には交通の不便であるとか、或は建築物の監視が不行屆であるとか、或は廣い面積を有つて居つて、消防作業が意の如くならぬとか、種々の理由があるのは無論であるけれども、建築物に於ける防火上の不用意と云ふ事が最大の原因であると思ふ、即ち工場の多くは隔壁の少い廣い面積の建物であつて、屋根の如きも瓦葺などのものは少く、大抵は鐵板葺等である、從て出火をした場合、火は上に拔けずして、非常な燃燒力を以て横に蔓がり、瞬間に廣大な面積を燒拂つてしまふ、是が常に工場火事の大きくなる主なる原因である、而も其罹災した以上、建物は比較的粗末なものであるから、建築物其ものゝ損害は餘り大きくないにしても、其中に收藏されて居る物品の損害は甚大の價格に上る、試に之を數字に就いて見るに、百坪以上燒失したものに於て次表の如き結果を示して居る。

年度	建物の損害	物品の損害
大正十三年	五五七、〇〇〇	四五一、〇〇〇圓
大正十四年	二九一、〇〇〇	六六七、〇〇〇
昭和　元年	三九八、〇〇〇	一、八四一、〇〇〇

之は即ち粗末な建物にも可なり價値ある物品を多く收藏して居る事を立證するものであつて、工場納屋等の建築に當つては、作業の便否とか、或は採光の良否とか云ふやうな、工場の作業本位にのみ依て建てることをせず、一面防火の事も考慮して相當の設備をする事が最も必要でないかと思ふ、從て建物と建物との間とか、或は天井裏のやうな部分には、出火の場合餘り速く火が擴がらないやうに、適當な隔壁を設け、進んでは防火壁を施すと云ふが如きは當然行はれなければならぬ問題であるに拘らず、不用意にもそれが實施されて居らぬ爲に、前揭の如き結果を見るのであらうと思ふ。

其他學校、寺院、劇場等の如き公衆用建物に付ても近來大阪市に於ては漸次不燃質の建築に變つて來たのは洵に結構なことであるが、併しまだ〳〵燃燒質のものが多い、無論之等の將來は不燃質のものに改築されるであらうけれども、其當面の處置としては、少くとも二教室に一つ位の防火壁を設けて欲しい、若しそれが實際實行困難な事情になるならば、さう完全なものでなくても可い、失火に際して一時的にでも火を防ぎ得られるやうな方法を講じて貰ひたい、現在の建物は何れの學校も悉く屋根裏が通しになつて居て、一度び火が屋根に移ると、必ず全校が燒失すると云ふ運命に逢着する、然るに最近市内で一火事があつた際、あれだけ大きな建物が燒けたのに、附近の極く接近した人家に能く火がつかなかつたものだ、と不思議さうに言つた人があるが、之はつかぬのが當然である、縱令少しでも其處に間隔があつたから、つかなかつたのである、さう云ふ譯で、若し學校の方に一時的にでも火を遮ぎり得る設備が出來て居れば、失火をしても大抵は局部的に喰止められるものである、又寺院にしても、從來の例に依れば、之も屋上まで燃ゑた火は到底消えぬ、皆全燒さして居るが、最近築港の高野山を燒きかけて、床下の一部を焦しただけで、喰止めた例がある、それは實に僅な注意に依るもので、即ちあの三十三所の觀音樣を祠つてある床下に於て火を失し、其周圍一坪ばかりを燒いたのであるが、鐵板を以て火が上に拔けないやうにしてあつた爲に、床下全部煙でまかれたけれども、火が上に昇らずして、あゝ云ふ僥倖を見たのである、即ち寺院などでも火を扱ふ場所は定つて居るのであるから、其火を扱ふ場所だけは外部と絶緣し得るやうにして置かなければならぬ、それは決して信仰を害する程度に至らない範圍に於て十分防火の目的を達し得る、防火壁の如きも設けられると思ふのである、亦庫裡と本堂等の間には必ず防火壁を設けて、庫裡に火事があつても、本堂へは移らないやうにして置いたならば、それが木造の大建築であつても決して火災の虞はなからうと思ふ、其他劇場等に於ても大抵樂屋、舞臺裏と云ふやうな所から火を出すのであるが、殊に舞臺裏の俗に葡萄棚と稱する棚の吊つてある附近に火を失したならば、到底消えない、必ず劇場は全燒する運命にある、之が若し其邊に火を失しても、他に移らないやうな設備をして置いたならば、大なる災害を被むる事は免れ得るだらうと思ふ。

總ての建築物をして不燃質のものたらしむると云ふ事は吾人も固より之を希望するものであるが、何も彼も直に不燃質のものにすると云ふ事は事實期待する事が出來ない、現實の問題としては、或は經費の都合上、或は場所の關係上、木造建築をするの止むを得ない場合もあらう、又燃燒質の建築をしたからと云つて、必ずして火災を恐れる必要はない、唯其建築に當て火災防止の施設を講ずる事を忘れないやうにして欲しい、然るに自分等も今日まで可なり長い間消防の事に從つて居るけれども、未だ曾て建築に當て火災の防止に付て相談を受けた事がない、即ち總ての建築物は建築の學理と技術には精通されて居ても、消防の事には全く素人の方のみに相談をして出來て居るものであるから、一朝之が火災に遭つた場合には、どうしても消防の方面から種々不利益な點も發見される譯である、今後は是非建築に消防の事を考慮されて、火災を防止し、縱令出火しても、之を出來るだけ一小局部に喰ひ止め得るやうな事にしたいと考へる。



道路問題の研究

大阪市の道路瞥見

大阪市土木部技術課長　近藤博夫

千十二萬坪に對する割合にして見ると道路は〇割五分、鋪裝道路は僅かに七厘となる、甚だ少い割合である、換言すると交通路が十分でない即ち交通の混雜が直ちに思ひやられる譯である。況して道らしい道が少いことは益々其混雜を直感せしめられる。

道路の少い、悪いのを都市計畫や區劃整理或は道路改修等でどし〳〵補つては居るが自動車の激增でとても追付かないのは事實だ。

最近出來た梅田大江橋間の廣路二十四間が都市計畫當初では廣過ぎる樣に謂はれた事もあつたが出來上つた今日は如何である、廣いどころか狹過ぎる樣に思はれてならん。

◎

私は永らく田舍廻りをして居つて昨年末大阪市役所へ入つたのであるから此大都市の道路なんて論ずる資格はないが其代り馴み過ぎて居らぬ丈けに批評めいた意見は案外當るかも知れぬ、先づ大小取まぜ短見申上げる。

◎

市内道路の總面積は私道を除いて國道府縣道、市道を合せ約二百五十八萬坪あるが此内鋪裝した道路の面積は約三十四萬坪である即ち約一割三分に當る。之を市内の陸地總面積五

鋪裝した道路でも此の通りだから鋪裝しない砂利道に至つてはお話にならない不陸直し否穴埋めに吾々は汲々たる次第である。

◎

この頃大阪市でやつて居る鋪裝は電車通りや主なる道路には木塊、而して其歩道にはコンクリート板を以てし、其他樞要商業地域の道路にはアスファルトを用ひ其内歩道に相當する道路の兩側部分には屢々起る地下埋設物の堀鑿等を想定して板石をつめる。又坂の急な所或は四輪車の特に多く通る所や水を多く使ふ場所には煉瓦を使つて居る、勾配十五分の一以上の處では馬が滑づて蹄を傷ける恐れがあるのでスタインプラスターと云ふて小塊石を文久錢の裏の様に波形に列べた鋪裝を試驗的にやつて見る事にして居る。或は又ゴム工業の發達した今日、ゴム鋪裝を急坂に應用しては如何かと考へて居る、現に最近倫敦ニューブリッヂ街にゴム鋪裝を試驗的に行つたと雜誌に報じて居る。

其他簡易鋪裝として郊外幹線或は市内の閑散道路にコールター塗布を施して居る。

其他色々な種類の鋪裝があるが皆一長一短で今後大にお互に研究して安くて良いものに仕上げたいものである。

個々に就ての意見は止めて總括的に私見を述べると大阪市の鋪裝は確かに技術的に成功して居る、之は自惚でなくて世の定評である、其原因には種々ありませうが其内で私が聲高く吹聽し鼻を高くし得るのは技術者、從事者の移動しない點にあらうと思ひます、某市であつた如く最高幹部の更迭毎に技術者が變つたり從事員が變つては折角會得熟練した施工方法が新規蒔直しになるから絶へず手習をやつて居る様なものである、理論は判つてもコツが六カシイ、此コツを呑み込んだ人々が年と共に經驗を積んで大阪市に落付いて居るから成績のイーのは尤もであると思ふ。

モ一つ成績の良い理由を云へば大阪市民が市の技術者を絶對信任してくれて居る事である、即ち半可通の容喙は愚であると云ふ事を悉知して居る事である、技術者が十分に考へに考へた方法を實行せうとして居るのに餘計な注文をつけたり或は奇怪な强要をされては熱心と勇氣、正鵠と緻密が缺けるものであつて其がどうも成績に現れて來るものである。

夫れで一體此等の鋪裝費は如何程かゝるかと云へば場所に由つて勿論異るが大體

木塊鋪裝（基礎共）	一面坪當り	約三十七圓
アスファルト 同（同）		約十九圓
煉瓦 同（同）		約三十三圓
板石 同（同）		約二十三圓
コンクリート板同（同）		約十二圓

で一時とならば餘程安くなつたものである、セメントも安い木材も安い、アスファルトも内地品、外國品が品質も研究すれば價格も競爭する様になつて來た、從つて煉瓦もジットして居れないと云ふ調子で總てが良くなつて安くなつた事は實に欣快慶賀に堪へない次第である、此機會に大いに仕事をせう、改良を加へやうと計畫は建てゝ見るが財政緊張と云ふ吾々には最もイヤな手でひねりつぶされて占舞うから全く悲觀せざるを得ない。

さて此鋪裝された路面の狀態を見るに是亦悲觀せざるを得ない、と云ふのは掃除の行屆かぬ事である、凸凹こそ無くなつたが矢張り路面は泥土のフキルムで蔽はれて居る、雨天には泥靴になる、草履では歩けない、これでは成績がイーと意張つた甲斐がなくなる、鋪裝の壽命も短縮されはせぬかと案せられる、然し自らを攻める一方多少同情を願ひ度い點がある、其は僅か四臺の掃除自動車を夜間運轉して舊市街の鋪裝路面の塵泥を掃き取つて居るに過ぎないから充分手の廻り兼ねるのも無理はないと思ふ船場島の內方面の樣に縱橫道路の鋪裝が行渡つて居る部分はまだしも表通りが鋪裝されても橫町が砂利道では橫町の泥土を、表通りの鋪裝路面に持つて來られるから溜まらない。理想としては早く縱橫道路の鋪裝を完成して而して現在行つて居る樣な只塵芥を掃いて取るばかりでなく能く路面を洗滌せなければならぬ、其には現在の上水を使つては贅澤だから河の水を導いて來る裝置をしたいものだと思ふ。

◎

次に撒水について思ひ付きを云へば現在市內の撒水は各町の衛生組合でやつて貰つて居るが市直營でやるのが理想である、然し市經濟の關係上此方法は面白い奬勵すべき方法だと考へる、但し撒水方法が少し統一されてない樣である、即ち路面鋪裝の種類の如何に拘らず唯水を撒けばイヽと思つて居る鮮人勞働者等の手に委せ切りの樣な感じする概して水を多く撒き過る樣である、殊に木塊鋪裝、アスファルト鋪裝に於ては特に水の溜るのは禁物だ、撒水は塵の飛散せぬ程度即ち路面が濕り氣がある位で澤山である、一度に多量撒水するよりも少量を回數多く撒いて貰ひ度いのだ、是れには撒水車の水の出口を一寸工夫しておけば撒水人夫の骨惜しみが除かれると思ふ。

◎

次に街路樹の事だが以前はよくいたづら小僧が枝を折つたり芽をつむだりしたものだが近頃は余程手入れも行屆いて生々しく成長して居るのは結構ではあるが今少しく物足らぬ感じのするのは並木の根元一二尺角の圍ひの中の土がムキ出しである事だ、市では費用の關係もある事だから直ぐには出來まいが各家で芝なり、好きな草花等を植えて貰つたら極めて容易に街路美を益々發揚する事が出來、一面女小供の趣味にもなるし又道行く人の足を止め思はぬ賈客の吸引策にもならうと思ふ。

◎

序に自動車に就いて云へば市內の自勤車數は約五千臺はあらう、其內大部分が均一車で夫れが主に舊市街を飛ばして居るのだから相當混雜を呈して居る、殊に電車筋に於て甚しいこれは自動車が多いのではなくて自動車の通る道筋の總幅員が狹いからである、私の理想を云へば(空想かも知れぬが)市內の電車軌道を路面から地下又は高架に移して占領つて自動車の賃金をズット安くする事だ、便利で迅くて事故も尠く路面の維持も簡單である。軌道から云つても今の樣に電車にも酷使され自動車にも重荷される事がなくなり壽命が長からう

と思はれる。

其れで想ひ出すが最近竣成した阪神國道上の電車だ、國道改修計畫當初に私は工事を擔當して居つた關係上極力併用軌道を反對したものだ、猛烈に排斥して兵庫縣にブツツかり內務省に突進して阪神國道上には特權を附與したる交通機關を許すべからずと理非を切論した、が然し內務省では軌道は道路上に布設すべしと云ふ偏屈な原則を楯に取つたり或は電車軌道敷三間を擴張するから道路本體には影響がないなどゝ子供の加へ算の樣な事を云ふてゞう〳〵許して占舞つた（本當の理由は外にあるが云はずに置きませう）夫れが愈々出來上つた今日如何でせう、中央には牛の樣な電車、其の兩側にはハヤフサの樣な自動車が疾驅する、電車乘降客の危險、之を慮つて自動車は數多い電車停留場毎に速度を緩めねはならぬ何んと惜しい事をしたものだと想はぬ人はあるまい、十年先きは愚か五年先が見へないのだから情けない、其上折角許した電車を助けねばならぬ義理合ひからか乘合自動車の競願を妥協させて一つにする心配までしてやらねばならぬぢやないか、因緣づくさへなければ乘合をドシ〳〵許して競爭させたら阪神及沿道はどれ程利便を得るか判らない、其れでコツ二千余萬圓を投じた甲斐があると今更ながら愚痴つて置く。

（編輯者の强いての乞いを容れて、愴卒の際本編を物せられたるが故に、或は充たざる處あらば、其は編輯者の責任にして筆者を累するに當らず（編輯者）



京阪神の交通に就いて

（口繪參照）

京都府土木部長　村山喜一郎

氏は兵庫縣に三年半、大阪府に二年半而して今は京都府に夫々土木に參與され、殊に曩日竣工式を擧げた、六ヶ年の星霜と二千萬圓の巨資を費した阪神國道は、兵庫縣就任當時設計起工に係り、大阪府在任中完成した緣故を以て、氏に之れに就いての執筆を乞ふた。折柄出張されることとなつて、出先きより寄せられたのが斯の一編である。卷頭のプレートと併せ讀まば、得る處鮮少ならざるを信ず。（編輯者）

六ヶ年の星霜と二千萬圓の巨資とを費した阪神國道が竣功し其の阪神間の交通上に寄與する所の偉大なるべきことは言ふを俟たない所で誠に御同慶に堪へない處である。

惟ふに既設の省線、阪神電車、阪急電車が阪神沿道の開發に貢獻したことは寔に甚大なものであるが此處に更に阪神國道の竣功するあり驅て開通せむとする國道電車、省線復々線阪神復々線等と相俟て其の沿道開發に資する所は蓋し相像の外にあり何處が府縣の境界やら分らぬ位人家又は工場が櫛比するに到るべきこと又遠いことではあるまいと思はれる、左樣なると阪神兩都を繫ぐ大道路も國道一本で宜しいとは云へず或は海岸に又は山手に夫々計畫せられ新設せらるゝことゝ思ふ。

現在の狀態よりしても海岸に沿ひ一本欲しいと思はれる、之が爲には海岸を埋立て埋立者に道路敷丈を採らすことにすれば只で貫通道路が出來る、それと同時に運河も埋立地內に造らせる、即ち阪神の海岸道路と阪神運河とが府縣費を投ぜずして民間の手で出來る事になり頗る策の得たものであるとして、之が計畫に關し相當立案して置く事が急務だといふので兵庫縣では五萬圓の豫算を以て此の調査に取掛る事となつた、民間企業者が陸續として之が計畫に基き起工を出願するに至るべき事を希望するものであるが兎に角基本調査として右に述べた調査の如きは甚だ結構なことゝ思ふ、只阪神運河に付ては京濱運河とは大いに趣を異にするものありと思ふ、即ち東京の門戶は一に橫濱であるが大阪の門戶必しも神戶にあらず大阪は大阪で築港を有し尙更に擴築の大計畫をも有し

て居り大阪及大阪附近工場に吸收さるゝ原料品及加工品は大體大阪の港で取扱ふべき趨勢になつて居るのであるから阪神運河そのものは阪神沿岸の工場地化に對する手段としての獨立目的を以て計畫さるゝことが妥當であると思ふ、又埋立に當つては海が深いので之に使用さるべき土砂は實に夥しいものとなるであらうから、土一升金一升の阪神地方では此の埋立土砂に不勘苦心を要することゝ思ふ、もう一度武庫川の付替でもやりこの土を得るか或は二三ケ所運河でも造つて土砂を採るかする外はあるまいが其でも土砂は足りぬと思ふ。

今後の交通機關はどうしても自動車だ、迅速に目的地點迄輸送する能力を有つて居るものは之に越したことはない、從て自動車道の開設が急務と爲る。

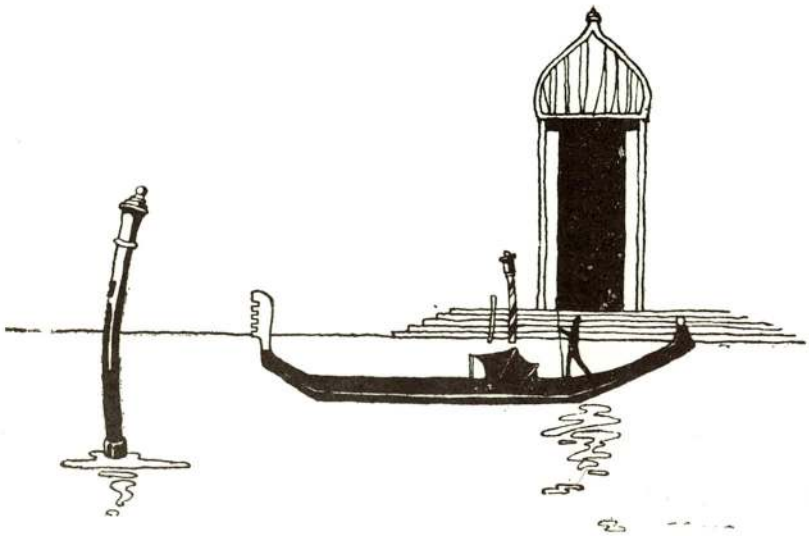
東京に於ける調査に依ると貨物一噸當りの運送賃は、平均汽車賃は二圓八十錢であるが發着地の小運送費が平均五圓七十錢即ち小運送費に倍も掛るわけで之では到底競爭は望まれぬ、何とかして此小運送費を廉くする方法を考へなくてはならぬ、大阪府の年生産額十三億圓といふが前記割合で行くと小運送費に優に二億圓かゝつて居るものといひ得る、是非道路を開設して小運送費の低廉になる樣に努めねばならぬ。

東京大阪何れも市の中心より十哩圈内は人工の密度が圈外に比し劃然と大である、東京に於ては震災後僅かの間に十哩圈内にある町村は震災前に比し四倍五倍七倍半といふ風に人口が增加して來た、大阪亦然り、人口密度圖を書いて見る、此の外廓を結ぶと丁度十哩圈になる、面白いことには此の十哩以内又堺市の中心より六哩以内、此の中に抱擁せらるゝ人口は大阪府下總人口の八割五分を占め生産額亦府下生産額の八割七分を占めて居る、時が進むに連れ十哩が十五哩、二十哩となり、神戸大阪京都を打て一丸とした、何と名付けて良いか、兎に角三市を抱擁する一大都市が生れ出づべきこと亦想像するに難くない、又實に此の如くして京阪神一帶の地をして一大生産地方たらしめ以て我國經濟の一大中心地たる地位に置くことが國運進展上最も緊要且適當なることゝ思ふのである、現在大阪の都市計畫區域内は所謂十放射線と稱して二千七百萬圓を以て道路新築のことに着手して居るが叙上十哩圈迄行くには尙距離があるので此の間の改修及堺市の放射線二本を合せ十大道路改良計畫を企て之を大阪府道路調査會に附議し可決し廳て近く開會せらるべき府會に附議せられて之が實行に向ふことと思ふさて京都との交通は現在の牧方經由の道路が國道であるが幅員狹隘で自動車で兩市の連絡に三時間半も掛る有樣であるから到底現代の交通路として役立たぬ、之が改修の急務なることは世人の齊しく認むる所である

京都大阪間には淀川が介在して居るのでどうしても淀川左右岸に一本宛の幹線道路が欲しい神戸との連絡又大阪市の將來の發展を豫想すると現在國道でない舊西國街道側即、河の右岸に大道路を得ることが必要であると思ふ、京阪神三都を合した大都市が出現すると、どうしても淀川が邪魔になる又淀川は堤防一本で大大阪を擁護して居るかと思ふと水災に對し誠に懸念に堪へない所であつて此點よりしても淀川は將來外の方へ付替るべきものではあるまいか。

併し天與の豊富なる水は工業用水とし又淀川敷に大運河を造つて茲を流下させるときは淀川流域が大生産地として發展するに至るべきものと思はれる。

そこで吾々の使命は京阪神を合體した大都市の出來ることを前提として三都市間の地方計畫を劃策すべきになると思ふのである。



大阪城虎の傳說の內（二）

齋藤憙太郎

主計頭と虎

秀吉の征韓軍隊が朝鮮の張家山といふところに陣營を張つてゐた時の話——

將卒は無聊にくるしんで、いろ〳〵の遊びをして日をおくつた。

遊びといつたところで、外に仕方がないので、軍人は軍人らしく、盛んに狩獵などをやつた。

ところがある日、この狩獵の一隊四五人づれの者が、附近の密林の中で二頭の虎に出くはした、何しろ不意のことであつたから、格鬪の末、幸くも一頭を仕留めたが、一頭を逸してしまつた、而も味方には二人の手負ひを生じ、あまつさへその中の一人は、とう〳〵傷のために次の日までに落命してしまつた。

戰闘の場合に討死したといふのなら、軍人として當然の事で、遺族は、殿下(秀吉)あるひは主筋の朱印狀でも受けるのであるが、虎のために命を落したのでは、咎めにこそなれ譽れではないので、同僚の軍人らはひどくこれに同情し、何んでも殘りの一頭を仕留めて、せめて命を落したものゝ妄執でも晴してやらうといふつもりで、次の日から毎日々々、十二三人づれが一團となつて、二團三團、別れ〳〵になつて例の密林を中心に、方々、なるだ廣い範圍の野原や溪谷や、到るところの樹陰草から、手あたり次第に搜し廻つたが、それから三日すぎて、陣所から巽、一里ばかり隔つて谷あひに於て、とう〳〵その猛虎の殘る一頭と見るべきものを仕留めてしまつた、その猛虎の左の脚には、一ケ所槍創があつたのでたしかにそれと分つたのである。

ところが、それから二川日過ぎて、今度は意外の事が起つた、それはこの陣所から程遠からぬところに泉があつて、軍隊の炊事係りの兵士が、毎日毎日そこまで水を汲みにゆく、この役目をしてゐる雜兵が十五六人もゐたらうが、その中の一人がまた虎にやられて命を奪られた。

これは、全く虎の方から水汲みの難兵と狙つて、逆襲をしたものである。

そこで、軍隊の兵士らは憤慨し、何んでもその猛虎を捕つて叩き殺さぬではおかぬといふ氣で、これも十人、十五人と一とかたまりになつて猛虎退治に日を送つてゐた。

ところが、今度は三日たつても四日たつても一向手がかりがない、誰も虎の影もみたものがないといふので、いよ〳〵焦り立つて、その中の隊長分のものが、その附近に住ひする百姓の某しを呼出して、さて、この猛虎は果して何の邊に居るだらうか、心當りの者はゐないかときいてみた。

するとその百姓のいふところによると、この泉の東二里のところに張九嶺といふ險山がある、この山の裏に一の湖があつて水をたゝへてゐる、この湖の傍から谷間におりると、樹木や高草が茂つてゐて、その邊の洞の中に金毛の猛虎が栖んでゐると敎へてくれた。

そこで隊長某しは、その百姓を先導者としていよ〳〵張九嶺に向つて、件の猛虎の狩立てに向ふ事になつた、まづ人數が五十餘人、いろ〳〵、虎狩りに必要な道具を携へたが、中に、喜兵衛、武兵衛といふ二人の捕り繩の上手がゐた。この喜兵衛、武兵衛は、丸く輪がねた繩を抛げて、よく人の首や手足に引つかけて相手を捕へるに妙を得てゐた、この二人はこの手で屢々戰場でも實地に手柄を現はしてゐるので、二人も虎狩りの人數の中に差加へることにした。

さて、この一隊はいよ〳〵張九嶺に着いた、隊長は全人數を三分して、山の三方から搜しつゝ分け入る事にきめた。この人數が落合ふところは、山の陰の深い谷間といふ事にしてあつた。

この三分隊の各々は、細心な注意で山に分け入つて、追々と溪谷に近づいた。

ところが、その中の十七人組みの第二隊が、一ばん先に虎の足跡を發見して、早くも洞穴を搜り當てる事ができた、こゝは樹木が生ひ茂つてゐる上に、雜草や笹つ葉のやうなものが鬱々と閉してゐるから、文字通り晝なほ闇い有樣であつて

とても無氣味千萬な陰氣なところであつた。

この一群の中に、決死の士が四五人ゐて、それらが、松火をともし、手槍をさげ、銃に口火をつけてその洞穴の中へ進み入つた、まことに危險な話である、しかし洞穴の中には、何ものもゐない事がすぐ確かめられた、と思ふと間もなく、この人數のすぐ後ぜの高草を、がさがさ踏みはけて何か近寄つてくるものがある。

人々は息をのんだ、皆な無言で草の中に折敷いて樣子をうかがつてゐると、間もなく草の中からぬツと出たのは、ほん當に一丈もあるかと思はれるほどの大猛虎であつた。

軍人と猛虎の爭では、忽ちそこに起つた、ところがその猛虎は、大いに怒つて、奮然としてこの十七人の者のまん中に跳り出したので、流石の軍人らも肝をつぶした、唯だ遠卷きにして必死の覺悟で詰め寄る丈けの事で、斯うなると實さい手出しができない、銃などでも、うかつに發すと味方を殺すおそれがあるので、何うすることもできなかつた。

する、この十七人の中に喜兵衛がゐた、その喜兵衛は、早技の捕り繩を投げかけて、果して虎の首へ繩をかける事ができた、虎は驚いて脫けやうとあせつたが、もがけばもがくほど繩がしまつて、とうとう、不思議にもこれほどの大虎を生捕ることができた。

この軍隊は、九州の立花左近衞將監の所屬であつた。早速猛虎生捕りの顚末を大將に報告もると、そんなら、それを日本に送つて、殿下にお目にかけたらよからうといふので、この虎に二十人からの兵卒をつけて、はざはざ九州の名護屋の本營まで送つてきた。

秀吉はこの猛虎を大阪に送つて、城中に飼つておいた。

秀吉は、後日、大阪城でよくこの虎を御前に引出させて眺めて喜んでゐた、女子供たちは誰一人、恐れて見るものもなかつた。

城中に伺候の大名でもあると、秀吉はきまつてこの猛虎を引出して見せた。非常に大きなもので、頭から尾のつけ根まで、實際七尺八寸あつたといふ、それが檻の中から廣庭に引出されると、城中も震ひおのゝくやうな恐ろしい大きな唸り聲を出した、どんな人間でも、この咆哮一聲には、肝をひやさないものはなかつた。

ある日、伊達政宗が伺候した、御前には加藤主計頭、石田治郎少輔、增田右衞門太夫、それに德川公もゐた。

秀吉は、馳走ぶりに、專らこの猛虎を、遠來の政宗に見せるつもりで、『彼の猛虎、庭上へ曳き出せ』と命じた。

臣下は早速檻係りの役人に傳へると、間もなく、雜色二十人で、例の如くこれを引出すことになつた、その引出しの方法といふものは、實に物々しいもので、虎の首に鐵の鎖を二本つけて、その一本に十人づゝ、兩方へ二十人の者が別れて力一ぱいに張り切つて曳いてくる、無論ちよつとでも緩めると危險せので、鎖は常に兩方へピンと張つてゐる、猛虎は唸り聲を立てながら、砂を掻き〳〵、爪のあとを大地にのこして庭上を進んでくるのである。

ところが、この日、何ういふ過ちがあつたものか、虎は檻を出ると、鎖を首につけたまゝ、人々の手を放れてぱつと庭上に飛び出してしまつた。人々は大いに驚き、わい〳〵云つ

てゐるうちに、猛虎は奮然として秀吉の御座所前の庭上に姿を現はした、

御座所にゐた秀吉を初め、そこに居合した人々、不意の事だから非常に驚いた、増田右衛門、石田三成は眞先に立上つて奥に逃げこみ、侍臣は秀吉を護つてこれも奥へ入つた、徳川公も、政宗も難を避けようと座を立ち上つたが、加藤だけは片膝を立てたまゝ動じなかつた、彼は片手を脇差の鍔元にかけ、大の眼をくはツとひらき『うむゝ』と唸つて猛虎の面上をハタと睨みつけてた、猛虎はこの時、片足をすでに椽にかけて、白い牙をむき出して、あはや飛び上らうといふ氣勢を示したが、加藤の顔を見ると、何かステゼリフのやうな低い唸り聲をのこして、椽にかけた片足を引き、そのまゝ庭の方へ退つてしまつたから、御座所は何んの變る事がなかつた

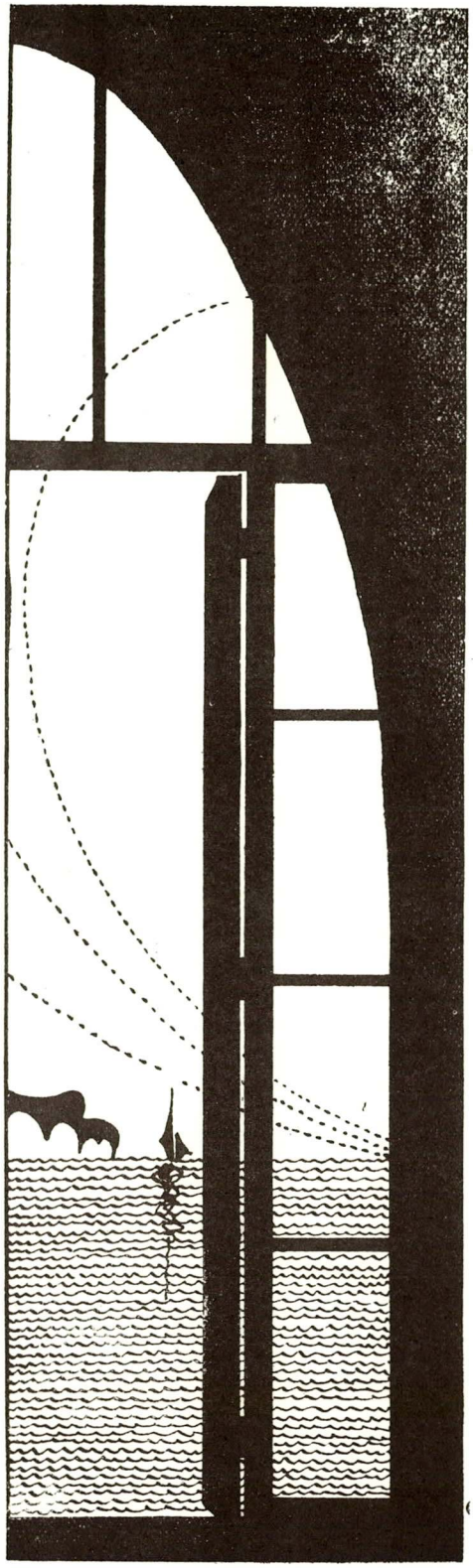
この、加藤主計頭が、猛虎を睨み返して追ひ拂つたといふ事は、その當時非常な有名な事で、人々の間に語り傳へられたといふ事である、しかしこの話は、七分通りは事實に違い事であつて、秀吉が猛虎を大阪城に送つたといふ事だけが事實で、その他の挿話は、これは一種の傳說とみるべきものである。

第三の傳說としては、一種の怪奇說である、これは次號にゆづる。

——（此項完）——

田舍漢は考ふる

法學士　大須賀巖



（一）

ミルであつたかと思ふ、昔讀んだ書物の中に、吾々が作つたと思ふ何物も、吾々が創造したものはない。凡て造物者の作つたものを、其性狀に從つて、共樣にしたのに過ぎない。例令ば、煉瓦は今日では人工の物として、自然石に對して、何人も認めて居るが、之は矢張り人が煉瓦の形にあらしめたに過ぎないので、煉瓦其者も、煉瓦を構成して居る物質も、ミンナ造物主の創造した物に外ならぬと、當時經濟學の初學者として、此見解は自分の腦裡に深く印象して、今日尙ヨク思ひ出すことである。ツマリ自然と人工との區別は、人間の頭と手が自然物に多く加はつたか否かの差である。自然の征服といふ言葉は、自然を思ふ存分に驅使することであるといへば、立派であるが、其實吾々は自然の性質に反して之を自由にすることを得ざるは、言ふを俟たない。則ち物の性質に從つて之に價値つけることは人間のヨリ爲し得るところであるが、自然の題景を見出して之を天下に照會することも、セメント石と鐵を以て所謂鐵筋コンクリートの建築物を作るこ

とも、自然物を人によつて價値つけることに何等差等がない筈である。

然るに世人は自然物其ものの形ちをかへないで、價値あらしめるのと自然物の形大をかへて——石、鐵、砂其儘の姿でない之が合成物とか、切瑳琢磨されたために或價値をあらしめたものとの間に區別をつけて、「アレは自然だから結構である」「コレは人工的であるから面白くない」と品評するのである。

若い科學者は物凡てを已れの頭と手によつて、人生に價値あるものとせやうと焦慮する。自然の石を見て、之を天然の所産でなく、自分の知識と手段によつて、如何なる時如何なる場所にても、或材料を以て自由に作る工夫はないかと考ふる、而して如斯常不斷に考ふるが故に、鐵瓶の蓋を持ち上げる湯氣に蒸氣力を發見して蒸汽機關を發明した、林檎の墜つるを見て引力の理を發見し摩天閣を創成した。發見から發明へ、帝國主義から民衆主義に吾々の人生は光明より更に光明へ導かれ行く如くに考へられた。

尿素をミアン酸アンモニウムから造ることを知つた人間は有機物を無機物から造り得ることを知つた。更らに年十八才のバアキンがコールター染料の特許を得てから五十年、天然染料は人間生活の贅澤品となつて、ウイリアム、モリスの泣き出しそうな絣し色のカナキンは、工場裏町の安物屋の硝子戸棚の中にも、蔓延で往來する昔平家の落武者の子孫の村の荒物屋の軒先にも釣り下げられて居る。更らに分析から合成を繰り返し々々、眞黒な石炭の凝りから、眷族から眷族を殖やして、今日では、英獨の經濟戰は、各々五億圓七億圓の大企業を餘義なくされて居るとさへ、新聞の經濟記者は吾々に報告して呉れてる、大聖ガンヂーが手紡車の歌を全印度に宣傳鼓吹して居るといふ報告をして呉れてると同時に。

「自然に還れ」といふ叫は、別に、今日に始まつたものでないと、社會史の大家は吾々に誨へて呉れた。要するに人間生活の歷史の蹟を稽ふれば、自然を見ては神樣の手によつてでなく、何とかして自分の意思と自由とで、時と場所の制限を成可なくして、作つて見樣とする希求と活動と、ソレからモウ一つ、自分の頭の中へ描いた或想像を實現して見度といふ希求と活動とで、自然物以外に所謂人工物をソレから夫と望蜀的努力に努力を續けた生活と自然の前に蹲いてヒタすらに之を讃仰する生活とが時代を異にして、或は相互的であつたり、或は同じ時代に一方の生活が幾分か宛強かつたりする、斯る生活の連鎖劇に過ぎなかつたといゐ得やう。之は法律の生活について、法制史の先生から聽いたところによつても左樣である。何處の土地でも、苟も人類の棲んだ處には何等かの法律があつたに違ひない。如何に今日の如き建築法規が其時代になかつたとて、吾々の原人種に近い御先祖樣方は御隣りの圍ひ——といつても今日の樣に人の攻擊を防ぐためではなく、野獸毒蛇？の侵入を防ぐためであつたといふ圍内に自分の家を建て樣といふ亂暴な所はなかつたろうが、若しあつたとすれば、神やらひにやらわれてしまふ制裁と不可爲の不文律はチャーンと存したに違いない。而して夫が何時の間にやら、不文律ながらも、銅牌に誌せば立派な法語と爲る丈けのものが出來上る。然かし之によつて招き來る結果は、規律される社會的秩序の便利許りではなかつた。御家の法度は裏

庭から生きた屍を送り出したりして、法の活用を試みても、尙法故に人生が迷惑する事象は數へ盡して、遂に羅馬法を籍りて來たり、康の律令を模したりして、一搬法と特別法、成文法と慣習法といふ對立が出來る。外國法を一般法として因習を打破した國民は一時は大分明るくなつた氣持に爲るも、ヤガて國民意識が動き初めて固有法主義が切りと頭を擡げる而して之も亦行詰る又々他の法を入れる要求と運動がクリ返されるといふ如き歷史は、何れの國民も體驗せぬものはなかろう、所謂法の進化論として法學者がムヅかしい顏して論ずるものゝ、一言にして盡せば之である。元來が、國民生活の中から出た一般的規律を蒐めて法と爲り、固有文化としての法が生れたのであるから之でドコ迄も滿足すべきである、然るに其固有過ぎることが反つて自家崩壞の因と爲るのであるから面白い。アルヂェリアのモーバスが蛹虫類の培養をした結果分裂繁殖は生理的頽廢を起し、此廢滅せんとするものに他の種族菌をクツ付けて再び生氣を回復することは社會學の新しい研究として吾々に報告されて居るところであるが、外來法の注射で一時の凌ぎをつけて又再び父戀し母戀しと「我國民生活にあふ法律が欲しい」「國民生活に基準を置く法を樹てよ」と六角堂の周圍をグルグル巡りして居る如き感之れ則ち人間生活史の僞らざる記載である、十年前の古洋服を着せざるを得ざる經濟學者先生教鞭を押つて教壇に呼ばはる、曰く「流行は周期的に巡り來る」と。

活動の後に休養が必要であると同時に休養の後に活動がなかつたとすれば、生物學の原則に基いて、使用せぬ機關は使用し過ぎる機關同樣、廢り物と爲つてしまふことは言ふを俟たぬ。自然に還つて、熊の皮を着たり、素裸になつて濱邊に横はる生活が果して人類の幸福であろうか、家を建てることを知つた人間が、先以て風も引かず、下痢も起さずにコンナ生活を續け得たとして果してドレ丈けの幸福であろうか。錦衣飽食の學者、實業家諸君が、夏の休暇に山村住ひはシャレて居るともいへやうが、年が年中此佗住、をせざるを得ざる運命の人は如何に都戀しからずやである。薩摩の國から遙々と、危げな船に生命と貞操とを托して、大阪築港埠頭に押すな〳〵で上つて來る娘の如何に多き事か、是等の餌を當てにして五月蠅の如くウロウロする惡周旋屋の如何に多きか、アビシニアの王宮を拔け出たラセラス王子の心も此娘達の心も思は同じであると自分は信ずる。則ち自己の前にある生活から他の生活への憧れは、夫が王宮から野へであろうと、伏が賤屋から花の都へであろうとに論なく、之を獲んがためには生命も貞操も顧みるところでない。大自然の懷ろに抱かれてる人間の望み欲するものは都會生活であり、都會の煙塵裡に傾きつゝあるものゝ希求は大自然であろう、併し其儘に無條件に生活を交換してしまつたら更らに悲しいことになるであろう、ソコに時代と個人的要求との或條件の下に、自然と人生の色とり々々な成果が生れ出て來なければならぬ。バンガロー住宅も可成、コテーヂ風も可成、セットルメントの風流も亦不可なりとせずであろう、アパートメントも摩天閣も許さるべしである。要は、生きて居る吾々の生活を一律一體のものとして命令しやうといふ暴虐から免れたい、而して美に懲りて鯰を吹く樣な名論、遼東の豕を以て廣東の豕を律せやうとする如き高說の押賣から自由でありたい。鹿鳴館の舞踏

亂舞も　電信線の下を御幣を拂つて兵隊を斬つた亂刀劇も一巡り最近試錬を經た日本國民である、華族のノラ息子の氣紛れな說法や錆びた甲冑を國粹の名で高く賣付け一杯有付かうといふ御手合はモウ飽き々々して居らねばならぬ等と思ふ。

（二）

事實は雄辨である、如何に議論しやうが、現にそれが顯然とある以上は、最早議論の餘地がないではないかと、純理的個人主義の人であるか、人道的功利主義の人であるか知らぬが、斯く說きたがる。併し現にそうであつても、夫が無理である以上は「あるべきでない」或は「あらしむべからず」として、正しき道に進むやうにすること假令ば不義の夫婦は、敢て野暮天の禿頭ならずとも、現にあるが故に之を認むる譯には行かぬ。正しき道に入らしむるべく勸むることが人間としてのお互の義務であるに相違ない。ソコで自分は考へる、無理な事は矢張りせぬが宜しい、如何に科學が進み技術が發達しても、水を逆まに流し、淺瀨に大築港を作ることの出來る世の中と爲つたからとても、又それが人の力によつて現實にあるべからざるものがあるものとしてあつたからとて無理は矢張りせぬが宜しい。如何にミルが自然と人工とを凡て神の創造の下に一括して畏れたからとて、不自然な人工は吾々の生活から廢めるがよいと考ふる。ソレに就いて、本誌五月號に揭げられた松室氏の『大大阪を一瞥して』の高說中無理をして大大阪とせぬことの警世的文字は、大阪の衛星都市と（しては少し廣義に過ぐると關博士や直木博士は言はるゝかも知れぬが）でもいふべき地方に住む自分共には身振ひする程、實際的有用の文字であると讃辭を呈りたい。今日、政治家の諸君が自家を尊榮ならしむるため、清き一票を得るためにする議論の題目であるにもせよ、地方分權論は可なり根強い國民的輿論である。帝都復興の遲々乎として進歩せざる一半の原因は、誰やらのいふた通り、東京市の理事者を中心として內閣諸公迄を包含する「東京人」が餘りに東京の繁昌許りに沒頭した、永年來の不注意が地方人士の同情を今日に繫ぐことを得る能はざる所にある。自分は震災當時一書を田島助役に遣つて、之迄全國各市協議會に冷淡であつた東京市は須らく此際——靜岡の會議へ參列して、之迄の不親切と不遜とを市長自ら詫ぶるがよい、然らざれば眞に大なる同情を全國に得難かろうと述べた、之が結果であつか同會議に一市吏員を出して切りに震災の狀況等を陳べたそうであるが、市長も助役も「忙しい」といふ斷はり文句の下に出て行かなかつた、其結果は知るべしである、全國各市より選出せられたる各代議士諸君が帝都復興事業費を如何に取扱つたか說明する迄もなく公知の事實である、此事は大阪市として決して他人事でない、正に三思猛省せねばならぬ。

大阪の市民諸君は今日の繁昌を其儘に、永遠に自己の特權と心得て居らるゝようである。併し最早大阪の問屋のいふが儘に地方人は、何時迄も下積であることに考へ始めた。地方の中小都市を之迄彼等の生活需用品の供給所として居つた地方人は已に大阪の問屋から直に買入るゝことを考へ出した、次て彼等は產業組合の機能を利用して、自らの工場を作らんと計畫し初めて居ることを知らなければならぬ。

自分が大阪都市計畫委員會に居つた頃、竊に考へたことは

其當時大阪にある工業は、何時迄つゞくであろうか、而してドノ種類のものが永く存立して行けるであろうかであつた。何となれば、今後石炭を動力とし或は原料とする工業であつたら、石炭産出地で生産する方がトクであることは、英國のマンチエスター市の例――東洋のマンチエスターと呼ばれるのを難有がつてる市民が何處かにある其マンチエスター市は石炭の都市であることからも解る、又當時三菱商事會社へ依頼して調査して貰ふたところ又市電氣局の調査によつても九州の若松港を積出港として計算して、若松の石炭の代價の二倍が大阪の工場に入つての價であつた、ツマリ運賃と積卸し積荷等に石炭の價丈けかゝるのである。則ち此損耗をしても石炭を使用せなければならぬ工業而してソウしても尚石炭の生産地でするより有利な工業は澤山に殘らぬことになろう今日のコウいふ計算超越して、只何となく、大阪でなければ氣の濟まぬ工業家が生きて居るのも、四十年か五十年であろうから四十年五十年を見越しての大阪都市計畫としての工業地域は煤煙の出る工業と、然らざるものとを淀川を境として二つに分けて、電力等による煙の出ぬ工業のみを淀川以内の工業地域に許す事にすることが、大阪市民の將來の衞生のため必要であろうと考へて、ソレにつけ電力の供給がドの位の量をドの位迄將來大阪の工業に供給されるものか、先般逝去せられた片岡サンにも親敷伺つたこともある。私は此問題は二十四間道路に七階建百尺高の大層樓閣が建て並ぶより大阪にとつて大事な事であると思つた。而して事の序に考へたことは、大阪市域内の馬鹿々々敷高い敷地に工場を置くよりも、水陸の便のよい瀨戸内海各地に何故工場を移さぬであろうか。大阪は金融の中心地として、事業の中心地としてのみ存し之等地方の工場とは電信電話で指揮も速絡も自由にとれることである。ソレにこうすることが、昔より大阪の臺所である瀨戸内海より九州各地の中心都市として、大大阪と爲る所以でなかろうか、若しソウせなければ自然的に大阪を中心とせざる地方分離が行はれて、馬鹿でない企業家は大阪を離れる者が多くなるであろう、已に北九州、廣島、岡山は其趨勢を如實に示して居るのである。斯く考ふる時、曾て酒井氏の別墅で催された松蕈狩を思ひ出さない譯にいかぬ。ソレは一人の慾深い大阪紳士が松蕈山の頂上近くで、一群の蕈を同行者數人と發見した瞬間身を跳らして其上に腹這ひになつて誰にもとらせまいとする、一方顏の蒼白な下品な青年實業家は其男の横腹の下へ手をツッ込むで窃む如くに失敬せんとする醜態は何者かを語つて居るやうに思はる。

大阪市役所の都市計畫部總務課長岡崎早太郎君は先達本誌であつたか、都人誌上であつたか、大阪府廳舍の新築に就いて意見を陳べられて、アンナものを作つても大大阪が實現されて、市が獨立した場合（同君は近きにありと信じて居るものゝ如し）何に使用するつもりかと冷笑して居られたと記臆する。自分は之と反對にソウいふ事實が生じたとしても、今日の大阪府、兵庫縣は少さきに過ぐるから、ソウいふ獨立市が出現するなら序に少くとも瀨戸内海の東半部を包含する大大阪府を作り上げて（勿論長官は大臣以上たること維新當時の大阪府尹―醍醐大納言小松、後藤の如くするは言ふ迄もなし）之が廳舍とすれば廳舍としてはチト狹き感あるも、斯くして今日の大阪も地方も産業的に自己を冷靜に凝視して、各自の自然の姿と行くべき眞の道とをハッキリ認め得らるゝと信ずる。



昭和二年度春季大會記念撮影　於比叡山麓

春季大會隨行記

N K 生

我が日本建築協會に於ける毎年の佳例たる昭和二年度春季大會は四月廿四日の日曜日を卜して最も盛大に擧行せられたり。

此の日は恰もよし連日の好晴に人氣彌が上にも立ちて參加會員の意氣已に盛んなるものあり。殊に這回の修學院離宮拜觀と云ふ催しは何とはなく時機に適したるものと見ゐ此の種の行事としては近來稀に見るの盛況を呈し拜觀者の數も實に百二十三名の多きに上り便宜上四班に別ちて見學せり。

今此離宮に就きて見聞せる所を少しく左に記さんに、離宮は廣袤實に十萬餘坪を占め地勢上上中下の三段を形成し舊と呼に皆お茶屋を以てせし由なり。即ち上の御茶屋、中の御茶屋、下の御茶屋之なり。上の御茶屋は位置東に在りて林苑最も廣く高所に倚り睥望朗豁にして天下稀に見るの勝景と云ふも敢て過言に非らざるべし、中の離宮は位置南に在り下の離宮より東に倚り地勢隨つて高く田畦の間に道路を通じ目近く農民の稼耕せるを見る。

修學院離宮の位置は山城國愛宕郡修學院村大字修學院に在り京北比叡の西麓に倚り靜寂にして夾埃遠く都塵を隔つ。

起源は遠く九百四十有餘年の昔にして佐伯公行卿勝算の爲に此の地に一寺を創め額して修學院と曰ひしに始り永延年間

勅して官寺となし給える由、後延元元年足利尊氏の爲兵災に會ひ終に廢滅に歸し修學院の名獨り邑名として殘り後年德川の治世に及び幕府　後水尾上皇の爲に此所に離宮を營み以て今日に及びたるものなり。臺觀亭榭の布置樹竹水石の按排多くは　上皇の宸意に出しものとのこと　上皇御愛游の狀今も尙目前に拜するが如し。

往昔の中の御茶屋即ち樂只軒（ラクシケン）は　上皇の皇女光子內親王に賜ひし所後內親王遁世して照山元瑤と號し茲を寺となし聖明山林丘寺と曰ひ住持せられ給ふ。其後荒廢せしが明治十七年奉還し翌年大いに工を修め以て今日の盛觀をなす。

延寶六年五月上の離宮隣雲亭炎上し六十餘年間稍々荒廢のまゝなりしが今より約二百四十年前　靈元院天皇法皇となり給えるに及び幕府之を修造し奉る、享保六年二月臨幸後毎年數度の御游幸を例とし給ひしが後其の御事なく九十餘年間荒廢に委せしが　光格天皇讓位の後文政五年（百十年前）幕府大いに修理を加へ　上皇の御游幸を仰ぐ、時の京都所司代內藤信敦上の離宮に一橋を架して献ず今存ずる所の千歲橋之なり上皇は太く此の離宮を愛されたりしが天保七年四月七日御幸の後又其事なく上の離宮の一亭止々齋（シシサイ）を仙洞御所に移さる。

修學院下の離宮、

藏六菴（ソウロクアン）　壽月觀（ジュゲツカン）

下の離宮は封域三千百二十四坪の面積を有し總門を有し一劃をなす、藏六菴、壽月觀、御輿寄の三亭相倚りて一宇をなす淡雅風流の構造樹石の幽邃と相俟つて身心の世外に在るの思をなさしむ、藏六菴三字の額は　後水尾上皇の御筆と傳ふ壽月觀內北側床脇に上下二層の袋棚を架す、小襖に書ける鶴及岩蘭の圖は共に原在中の筆なりと云ふ、藏六菴との界の襖に岸駒の書きしと云ふ虎溪三笑の圖あり。南面楣上にある壽月觀の三字も亦上皇御筆なりとぞ、庭上に奇形なる石燈籠三基あり、一つは袖形又は鰐口と云ひ一つは稜形をなす他は城櫓の形をなす櫓形と稱するものなり。

修學院中の離宮

樂只軒（ラクシケン）

樂只軒は前述の如く寬文中林丘寺に賜ひし所後年再び奉還せしものなり。南に正門有り石段十餘級を昇りて御成門あり門內の東倚りに在るを樂只軒と呼ぶ、方五間南東に椽を圍し林泉に臨む、總て九室中央の六帖を正室となす、吉野山櫻花の圖を掲ぐ、探信の筆なりと、西側楯間に後水尾帝の御筆樂只軒の三字額あり、西に龍田之間と云ふ八帖あり、六帖八帖の南に一間の緣あり疊七帖を敷く、其東に五帖二室ありて相連らる、舊と寺の小書院なりしと、樂只軒の東南に書院あり御客殿と呼ぶ、東福門院の御化粧之間を賜ひしものと傳ふ。

南面十二帖の北側西に一間の床あり、壁白張にして雲形に金銀砂子を撒き色紙を張り內六葉に和歌を他の六葉に歌意を書きあり、腰張は金箔及紺青を以て斜市松形を表す、白張との界は胡粉を以て線を劃す、御床の東に地袋違棚あり、修學院八景を詠じたる十六葉の色紙を貼す次の如き絶句あり。

村路晴嵐　修學晩鐘
遠岫歸樵　松崎夕照
茅檐秋月　平田落雁
隣雲夜雨　叡峰暮雪

皆典雅にして古色を帶び拜觀の諸士容易に去らず。

修學院上の離宮

隣雲亭

上の離宮は封域實に六萬一千四百四十四坪東に山を負ひ西に野を臨む、西南に御成門あり、門内の東高き所に倚りて隣雲亭あり、叡山の西口雲母坂の南に隣れるを以て隣雲亭と名けられしと云ふ、文政年間改造せし所なり、總て三室三帖六帖の上之間と四帖程の板間となり。東北山崖に一大飛瀑あり高さ二丈雄瀧と呼ぶ。

窮邃軒

隣雲亭より一丁餘路傍左側に一島あり細江に板橋を架す楓橋と云ふ、島中に一亭あり之を窮邃軒と呼ぶ、上の離宮は到る所幽邃仙境なれども此所に到りて遂に幽邃窮るの意か、之亦文政年間修理せし所、方三間大なり大小三島の内最大なるもの丶上に建つ、前記千歳橋は此の島に架せられてるものなり。

千歳橋は石橋なり長さ二間許り屋を有す、其兩端は高き正方形の屋となり、東にあるものは屋頂露盤の上に金銅の鳳凰を配し西にあるものは四阿造にして兩側に腰掛あり、石梁上兩側に欄干を付す。

隣雲亭及千歳橋の附近は到底都近き所にありとも思はれざる程の景色にして遠くは愛宕山鞍馬山等の春霞む邊迄眺み得べく京都市の大半を俯瞰し林苑の優水石の美と相俟て其閑雅なること筆紙の遂に及ばざる所なり。

之にて吾等の見學は全く了を告げ、靜肅裡に退出八瀬なる晩餐會場に赴く。

かくて豫定以上の滿足を得て離宮拜觀を終りたる百餘の會員は身も心も清く輕やかに三三五五と打連れ打談らひつ丶春の夕を八瀬杢屋支店の晩餐會場に辿り少憩後叡山を背景に一同記念の撮影をなし定刻五時を過ぐる幾程もなく開會、會は先づ例によりA氏B氏C氏の半帖に賑ひ武田委員長の挨拶あり甘黨辛黨の混亂戰に暫時は鳴りも止まず一同愉快を盡し七時過ぎ散會外には早や叡山に暮色迫り京の町は春宵の艶を見せ或は都踊りに走るもあり或は家路を急ぐもあり、斯くて本年度春季大會を樂しく終る。

本誌定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	七拾五錢	貳錢
	十二冊	九圓	貳拾四錢

（毎月壹回一日發行）

昭和二年五月廿一日印刷
昭和二年六月一日發行

發行兼編輯人　大阪市東淀川區中津町一九八番地　江村恒一
發行兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
印刷所　大阪活版所
發行所　大阪市北區中之島二丁目二十五番地江商ビルヂング　社團法人　日本建築協會
電話本局四二一九二一番
振替口座大阪三九九七五

特約販賣店　大阪市西區京町堀羽子板橋北　柳々堂書店
電話（土佐堀四四〇番）
振替口座二二〇八四番



本協會名譽賛助員石橋爲之助氏昭和二年四月二十八日疾を以て長逝せらるゝ洵に哀悼の至りに禁へず、茲に氏の照肯と略歴とを掲げ謹で弔意を表す。氏は明治四年六月二日を以て大阪府西成郡曾根崎村に生る、同十九年六月曾根崎尋常高等小學校二等助教拜命、同二十四年九月京都同志社に入學哲學を學び同二十六年六月中途退學す、同年七月米國宣教師ジョージ、オルチン氏の祕書役を勤め其餘暇を以て東京早稻田專門學校政治經濟科校外生卒業此間英、獨、佛語を獨學す

明治三十年六月大阪朝日新聞社に入社し論說部員として白羊の號を以て外交、財政、市政、教育の問題に付立論せり、同四十年五月大阪市より衆議院議員に選擧せられ爾來大正六年一月まで約十年間當選在職す、同四十二年澁澤男爵を團長とせる渡米實業團正員として米國に渡航す、同四十三年韓國併合記念章拜受大正三年衆議院を代表し萬國議員會議に參列の爲歐洲に赴く、同四年衆議院巡遣團の一員として朝鮮、滿洲、支那各地を巡遊す同年十一月御大典參列記念章を拜受、大正三、四年事件の功により勳四等に叙せられ瑞寶章を賜はる

同六年三月大阪朝日新聞社を退社し專ら實業に從事す山陽製鉄株式會社社長、廣島瓦斯電軌株式會社取締役等を勤め其間日米船鐵交換事業を大成す、同十一年十二月神戸市長に選ばれ同十三年佛國政府よりコンマンドール、ドラゴン、ド、ランナン勳章を受く

同十四年六月糖尿病重患の爲神戸市長退職、爾來神戸市西須磨高倉山麓の自邸に靜養中の處腎臟病を併發し四月二十八日永眠せらる享年五十七

會合

第四部（災害）委員會

日時　昭和二年四月九日自午後六時至八時三十分
會場　本會々議室
出席者　委員長　波江悌夫
委員　池田宮彥　永澤毅一　黒田茂　増田清（五氏）
決議事項
一、本委員會にて今回の震災調査報告書及寫眞等を纒め之を協會に保存すること

定例常務會

日時　昭和二年四月十一日自午後五時至同九時五分
會場　本會々議室
出席者　理事　宗兵蔵
常務　松室　重光　阪口芳三郎　徳政　金吾　波江　悌夫　八木幸次郎
監事　横濱　勉
第一部委員會委員長　階田　實
第二部委員會委員長　小笠　鋤
議事
一、委員會規定一部改正及追加の件　否決
一、分科設置に付委員囑託方の件　（第一部）可決
一、分科設置に付豫算要求の件　否決
一、分科設置に付委員囑託方の件　（第二部）可決
一、石材規格案に關する回答の件　（第三部）可決
一、會員外專門家に依囑するの件　（第三部）未決
一、懸賞論文募集の件　可決
一、特別委員選定の件　決定
一、建築學會本年度講習會に付打合せの件
一、鑑定人選定の件報告
一、出火場立入證の件報告
一、通俗講演會講演會者へ謝禮の件報告
一、職員春季運動會補助金給與の件　可決
一、會員詮衡
一、協會事務移轉の件　保留

第三部（資料）委員會

日時　昭和二年四月十二日午後六時至午後九時二十分
會場　本協會々議室
出席者　委員長　松室　重光
委員　今林彦太郎　岡部　顯則　谷　民藏　三木　來三　下浦　光衛（六氏）
一、石材規格に關する回答文修正決定
一、石材規格調査の爲專門業者を臨時委員として囑託其意見を聽取し材料の蒐集をなすこと
三、建築主要材料より順次其規格等を調査することゝし代表的專門業者を臨時委員に囑するの手續をなすこと

第一部委員會第三分科會

日時　昭和二年四月十八日自午後六時至午後八時三十分
會場　本協會々議室
出席者　委員長　池田　實
委員　竹中　景一　野呂長四郎
分科委員　岡部顯則　浦英立助　古川豐（六氏）
記事
一、池田委員長より分科會設置の理由を說明後主査一名を選任することゝなり協議の結果左の通決定承諾を得たり
第三分科會主査　浦　英之助氏
一、次に大體方針に付協議をなし建築に關係ある法規の名に付て調査を始むることに決し竹中委員の手許に於て名稱を列記提出のことゝす
但し法規の名稱は重要なるものより列記し先づ大阪府令より始むること
一、各法規に付て順次改正意見を研究し終りたるときは委員長より會長に報告し會長より當局に對し建議することを要求すること
注意　竹中委員より送付を受けたるとき浦主査に打合せ分科開催のこと

第一部委員會第二分科會

日時　第三分科會と同時
會場　前同所
出席者　委員長　池田　實
委員　竹中　景一　（二氏）
記事
一、先づ本分科會に主査を選任することに決し左の通決定承諾を得たり。
第二分科會主査　池田　實氏
一、次で本會の大方針に付きて協議し先づ左の三事項を調査することに決定し協會員全般より其意見を問ふこと
1. 市街地建築物法令の規定に關し改正を要する點
2. 市街地建築物法令の解釋に關する疑義の點
3. 市街地建築物法令施行上に關する意見
但し右照會は發送の日より半ヶ月の猶豫を置き回答を求むること

第一部委員會第一分科會

日時　第三分科會と同時
會場　同所
出席者　第一部委員長　池田　實
分科委員　置鹽　章　樋口辰太郎（三氏）
記事
一、池田委員長より分科會設置の理由を說明後先づ主査を選任することに決し種々協議の結果左の通決定せり
第一分科會主査　宮本長治氏
右宮本氏は本夕欠席に付主査に推薦し

たることを樋口委員より傳言することに決す

一、本分科會の大體方針に付き議したるも宮本主査欠席を付き次回に讓ることゝす

第一部委員會第一分科會

日時　昭和二年四月二十一日自午後六時至午後七時三十分

會場　本會々議室

出席者　委員長　池田　實
委員　野呂長四郎　久留　弘文
分科委員　大倉直三　山脇友三郎（五氏）

記事

一、主査一名互選左の通決定
第六分科第主査　山脇友三郎氏

一、次に本體方針に付き協議し先づ回會聯合請負規定を取寄せ之を基礎として研究することに決定

一、左の各官廳其他の入札規定を蒐集謄寫すること
大阪府、京都府、兵庫縣、大阪市
京都市、神戸市、堺　市、尼崎市
鐵道省、遞信省（木子七郎、和田技師）

一、次回の分科會は研究資料蒐集次第便宜開催すること

第一部委員會第六分科會

日時　昭和二年四月二十一日自午後六時至午後八時三十分

會場　本協會々議室

出席者　委員長　池田　實
委　員　久留弘文
分科委員　岡田宗一　小寺彌一
清水榮二

記事

一、主査一名互選し左の通決定せり
第五分科會主査　久留弘文氏

一、本分科會の調査大體方針に付協議をなし先づ實費精算施工となしたる所より材料蒐集することに決し左の事務所其他より契約書及參考資料を借用又は讓與をうけることゝしたきことに決す

曾根中條建築事務所　渡邊建築事務所
櫻井建築事務所　大林組
長野建築事務所　竹中工務店
錢高組　橋本組
大倉土木株式會社　清水組
滿鐵建築科　三菱地所部

一、建築學會主催の實費精算施工法聯合委員會の進行狀態を調査すること

一、前記聯合會の本協會委員安井、瀨戸兩氏委員に個々的に連絡をとること

一、本分科會の會合日は豫め選定し委員の都合により四人以上集合の日を選び更に決定日を通知すること

第一部委員會第四分科會

日時　昭和二年四月二十一日自午後六時至午後八時三十分

會場　本協會々議室

出席者　委員長　池田　實
委　員　小川安一郎
會科委員　今林彦四郎　竹内綠
南　信（五氏）

記事

一、先づ主査一名を互選を行ひ其結果左の通決定
第四分科會主査　橫濱　勉氏

一、本夕主査欠席に付小川委員主査代理となり次回よりの調査方針に付左の事項を協議す
左の法規類を復寫等により各委員に配布し研究に資すること

1. 日本建築士會作成の建築士法案
2. 建築士法に關する歐米建築界の狀況
3. 同上補遺
4. 英國建築士業務上の行爲及常習
5. 佛國中央建築士會制定建築士職責規定
6. 米國州法にある建築士從業の規定（附建築學校の登錄）
7. After paragraphs Extracted.
8. 醫師法
9. 辯護士法
10. 辯理士法
11. 關東廳建築士法

一、本分科會の開催は主査に於て決定通知すること

一、橫濱勉氏に主査當選を通知すること

春季大會擧行

日時　昭和二年四月廿四日（日曜日）

目的　修學院離宮見學
晚餐會　當日午後四時叡山電車八瀨終點
　　柊屋支店
集合時間及個所　當日午後一時京都修學院離宮正門外
參加人員　百貳拾參名

記事

一、當日は天候絶好離宮正門前一民家を臨時に借入れ受附及休憩所に當つ。

一、午後一時十分第一班を作り拜觀開始宮內省出張所員の案內にて下の離宮上の離宮、中の離宮と順次說明を聽きつゝ約一時間半に涉り拜觀を了る次で第二第三第四班と續いて滯りなく拜觀を終る時に午後四時

一、柊屋支店に集合叡山を背景として記念撮影をしたる後晚餐會を開始武田委員長の挨拶あり獻酬交觀殷盛を極む午後七時近く散會

一、本年度春季大會は和氣靄々裡に修學院離宮拜觀の目的を達し晚餐會亦大いに賑い無事大會を了りたることは本會の爲欣幸とする所なると同時に大會委員諸士の連日の勞に對し本欄を通して多謝する次第なり

大會參加員芳名（イロハ順）

伊藤　正文　岩尾　安衛　岩崎甚太郎
池田谷久吉　生野瀧三郎　伴　秀雄
林田瀧太郎　本間　乙彦　堀本　兵一
德政　金吾　朝永國次郎　土井　軍治
友淵　義廼　豐島　傳雲　刀彌　英彥
鎭西　善平　沼舘與惣吉　小川安一郎

大倉　三郎　小笠原　鋼　大倉　直三
岡本新次郎　小川　久市　小川繁太郎
大原　忠隆　奥野　時三　太田　穗積
小野　義雄　渡邊　義三　渡邊　源治
脇永　一雄　若山　眞一　片岡　長參
河部　茂　龜井幸一郎　川村　育藏
川島甚兵衛　加藤　誠二　横濱　勉
谷　民藏　武田　五一　竹中　景一
高岡興三吉　辰巳吉之助　立島　幸助
武富　英一　田中庄太郎　多田　藤雄
宗　兵藏　園部　文雄　坪井　誠一
永瀨　狂三　中島　智喜　長田岩次郎
中村　鎭　永田三次郎　中尾　保
中野　忠　波江　悌夫　植村　佐則
國藤　武　山下清太郎　矢木　英夫
山中　茂一　山本磯十郎　山本　直
山添　繁藏　矢野　武一　八尾常次郎
松室　重光　松本　儀八　松下　由藏
丸山　正吉　古橋　剛丸　福澤　谷藏
古都　猛雄　藤田友太郎　藤村　愛資
古宇田實　小林　悉　鴻池忠三郎
古賀　鄕實　東　與惣次　足立　正雄
油谷　清治　青山　清　阪口茂三郎
境　正一　佐藤正次郎　酒井藤一郎
佐藤　佐　阪口　正雄　佐藤　平輔
酒井　清一　左谷米三郎　木島德太郎
木村梅次郎　木村得三郎　清野瀧三郎
行弘讓二郎　三宅　春陽　殿樂　貞三
篠原　清孝　城口　龜吉　白川　雄一
四井　晉七　清水　丹治　日端　甚一
廣田　好文　森　篤次郎　須川廉太郎
須藏　隼人　嘯谷　元治　鈴木又次郎
鈴木　一幸　松丸盛一郎　竹中藤右衛門
吉武　長一　外に職員（五名）

臨時第四部（災害）委員會

日時　昭和二年四月廿七日（第七回）
　自午後五時半至午後七時半
會場　本協會々議室
出席者　委員長　波江　悌夫
　委員　池田　宮彦（二氏）

記事

來る五月十九日大阪市記念日を期して大阪都市協會が其第一回都市問題會議を行ふに當り同協會より會議材料の提供方を依頼せられたる場合には本委員會を臨時に開催し左記に關する材料を集め提出することと致し度し

一、近代大阪市の火災に關する記錄及地圖
一、歷史的に見たる當市の火災記錄
一、近代の大阪市火災による損失
一、消防機關の配置を地圖上に示すこと
一、大阪市耐火建築配置の數年間又は十數年間に於ける比較圖
一、奥丹後及北丹後地震被害調査圖書
一、大阪市各所ボーリング比較表
二、大阪市明治十八年の大洪水浸水地域圖を再調して提出すること
一、不良住宅地域の圖
一、防火と建築に關する模型、建築材料消水器具の提出方を各材料、器具商へ當協會より勸誘すること
一、金澤大火を調査して置くこと（之を機會として）
一、雜之部
　尙大阪市の河川修理に關する歷史的記錄を調査すること
　上記の內已に市又は府にて調査濟或は提出用意中のものは之を省略すべく夫れ等材料中有益なるものは當協會に寫して保存のこと

第三部（災害）委員會

日時　昭和二年五月九日自午後五時二十分至午後九時
會場　本協會々議室
出席者　委員長　波江悌夫
　委員　池田宮彦　永澤毅一
　臨時震災調査委員　中島智喜　黒田　茂
　大野直平（六氏）

記事

一、都市問題會議二參考資料として當委員會より次の圖を出品することゝして其用意を爲すこと
一、安政元年地震被害により今井博士の査定せられたる震度比較區域（池田委員擔當）
一、昭和二年奥丹後地震による大阪市內被害調査圖（委員長擔當）
一、尙大阪市史附圖より大阪市の海岸線の既往より今日迄の變化地圖を寫し委員會に保存のこと（池田委員擔當）

定例常務會

日時　昭和二年五月十日
會場　本協會々議室
出席者　理事　片岡安　宗兵藏
　日高胖
　常務　松室重光　坪井誠一
　阪口芳三郎　池田谷久吉
　吉井長七　波江悌夫
　野呂長四郎（十氏）

報告及議事

一、四月分會計決算報告
二、春季大會決算報告
三、會員其他死亡者報告
一、五月例會に關する件　條件附可決
二、委員會に要する經費支出方の件、所要豫算揭載のこと
三、委員會の往復文書に關する權限に關する件　議決
四、第一回全國都市問題會議に本會代表一名出席に關する件　議決
五、全國都市問題會議に參考品出品並に之に要する經費支出に關する件（第四部委員會附託に決す）
六、本協會事務所移轉の件　可決
七、廣告用ポスター等寄贈の件　否決
八、雜誌寄贈の件　可決
九、會員詮衡
十、カット圖案懸賞募集の件　可決
十一、特別賛助員大屋鑞城氏變格の件、可決
十二、今回の財界動搖に付資產に關する件　未決

新入會者

○會　員

岩淵　文治君　名古屋市中區春日町三八

野上　一郎君　府下豐能郡豐中町新免六八四

佐藤松太郎君　東區大手町一ノ一五

須藤　隼人君　府下三島郡吹田町一一五

鈴木　一幸君　兵庫縣武庫郡本山村北畑二八九

○普通贊助員

石田　直行君　西區京町堀通三ノ一木村工務所

和田　房藏君　同上

退會者

○會　員

池上　德一君、野間亮平君、佐々木信二君、藤田友吉君

○特別贊助員

高橋清光君

○普通贊助員

服部逸治君、長谷中捨夫君、七尾憲太郎君、由良基夫君、佐々木止男君

死亡者

名譽贊助員　石橋爲之助君

昭和二年四月二十八日逝去

會　員　北村　萬治君

昭和二年五月　五日逝去

轉勤轉居

○會　員

落藤　藤吉君　廣島工兵第五大隊第二中隊

海老　政一君　兵庫縣川邊郡川西町寺畑字丹後脇田

川本榮次郎君　東京市下谷區谷中初音町四ノ一一

山本　久吉君　府下泉北郡上條村助松八六五ノ八

三浦　白峰君　住吉區阿部野町一二四

谷川勝次郎君　住吉區天王寺町五五五

山田　重藏君　東區清水谷東ノ町四五〇

田中　四郎君　廣島縣佐伯郡五日市町八幡西詰

芝原　二郎君　西區江戸堀南通三ノ五柳下建築事務所

河合貞一郎君　神戸市海岸通一二大林組神戸營業所

尾藤英太郎君　大阪市役所建築課

花田孝二郎君　東京市麹町區麹町八ノ二五

井上　新二君　兵庫縣廳都市計畫兵庫地方委員會宅、神戸市熊内橋通壹ノ七

永澤　毅一君　神戸市西須磨下流川二

重本政次郎君　兵庫縣三原郡志知村松本

宮崎方

岡山縣都窪郡中州村酒津

倉敷絹織株式會社工場新築

森定松之祐君　築場大林組倉敷出張所

船本　晋君　同上

柳下　實君　西區江戸堀南通三ノ五柳下建築事務所宅、兵庫縣武庫郡甲東村下大市字五ノ山七一七

八尾　艮藏君　東京市京橋區桶町八梅田建築所宅、東京府豐多摩郡戸塚町訪二〇九伊丹方

内藤　多仲君　東京市牛込區若松町七六

朝香　茂君　東京市京橋區越前堀一ノ五靈岸島小學校建築場大林組出張所

毛利　泰三君　神戸市北長狹通五ノ七六

櫻井　吾一君　明石市人丸町三三八ノ六

水谷方

田中　寛造君　兵庫縣武庫郡精道村打出鄉ノ元二

森西龍太郎君　北區北扇町四六一區五丸

佐藤　當夫君　兵庫縣武庫郡精道村打出字山口二八

○普通贊助員

大倉　荒吉君　長崎市末廣町二丁目長崎稅關廳舍新築場大林組長崎出張所

大槻　貞夫君　群馬縣群馬郡元總社村石倉大林組前橋出張所

村本文田郎君　山梨縣廳舍建築工營所宅、甲府市御崎町三

茂木清太郎君　東京市小石川區久堅町三三

島村　繁君　石川縣七尾町西港津向七尾セメント株式會社建築課

田中　數雄君　姫路市南神屋町三三四

松山　愛三君　富山縣伏木町十二銀行建築場竹中工務店出張所

岡本　文之君　三重縣松坂驛前神戸鐵道局松坂保線區

永井　義方君　岡山縣都窪郡中州村酒州倉敷絹織株式會社工事場大林組倉敷出張所

川久保梅治郎君　金澤市出羽四丁一五

初田廣之助君　神戸市野崎通七ノ二四

田林工務店内

野口　修二君　府下豐能郡豐中町新免近藤方

住所不明者

左記人々の現住所不明に付御存知の御方は本會まで御通知を願ひます

普贊　大野　喜作君

同　高松　秀行君

同　山本　直君

同　高崎　齊藏君

役員

會長　理事　片岡　安

副會長　理事　宗　兵藏

副會長　理事　日高　胖

監事　横濱　勉

監事　松本禹象

主記　常務　坪井誠一

同　常務　松室重光

同　常務　阪口芳三郎

主計　常務　德政金吾

同　常務　吉井長七

同　常務　谷　民藏

編輯　常務　池田谷久吉

同　常務　波江悌夫

同　常務　野呂長四郎

同　常務　八木幸次郎